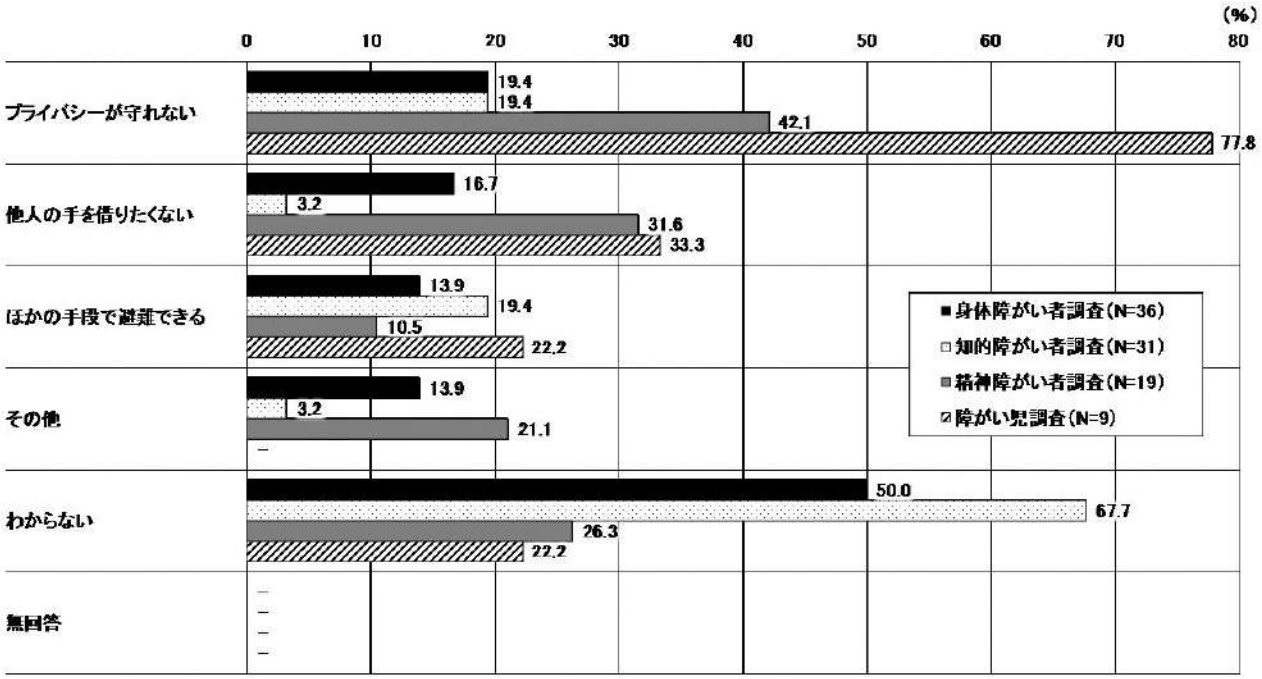
【図 8-1-7-2 協力しない理由（全体・調査別）】



身体障がい者では、「わからない」50.0%が最も多く、次いで、「プライバシーが守れない」19.4%、「他人の手を借りたくない」16.7%、「ほかの手段で避難できる」13.9%、「その他」13.9%となっている。

知的障がい者では、「わからない」67.7%が最も多く、次いで、「プライバシーが守れない」「ほかの手段で避難できる」19.4%、「他人の手を借りたくない」「その他」3.2%となっている。

精神障がい者では、「プライバシーが守れない」42.1%が最も多く、次いで、「他人の手を借りたくない」31.6%、「わからない」26.3%、「その他」21.1%、「ほかの手段で避難できる」10.5%となっている。

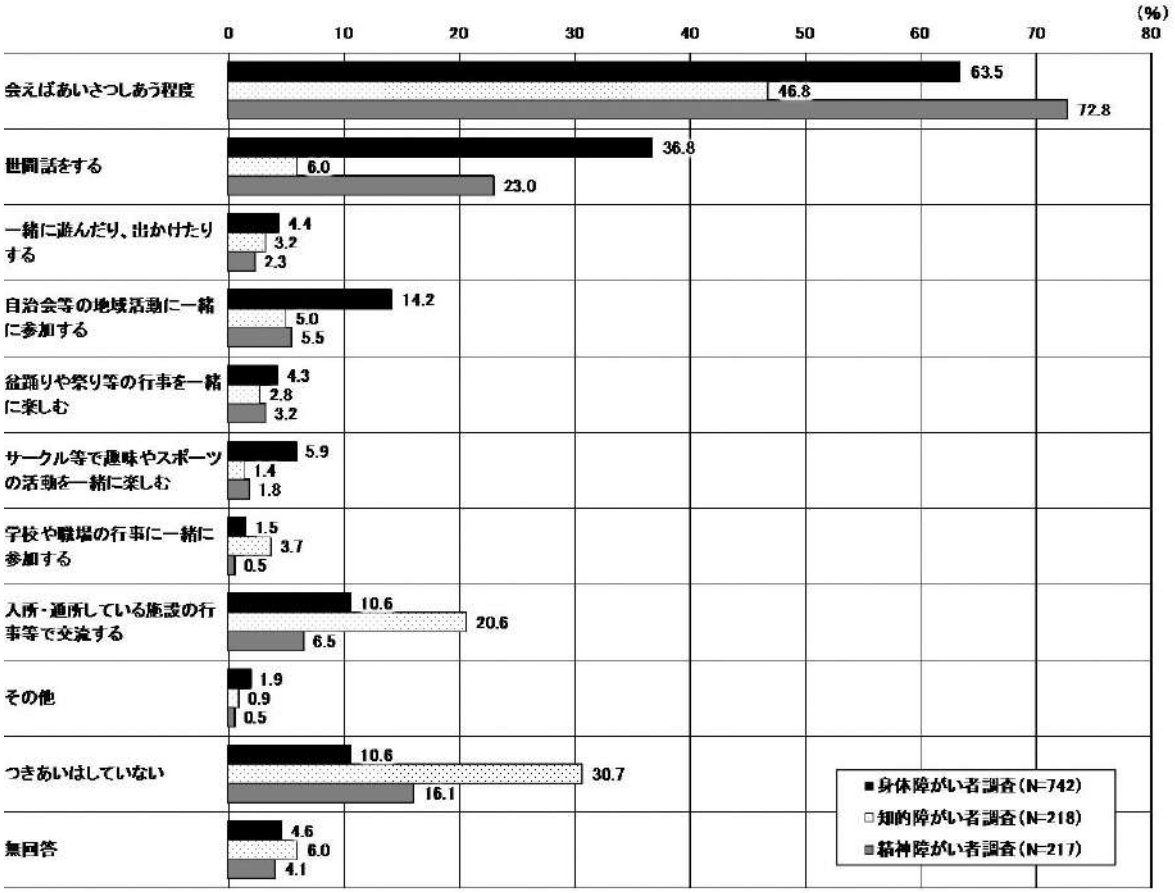
障がい児では、「プライバシーが守れない」77.8%が最も多く、次いで、「他人の手を借りたくない」33.3%、「ほかの手段で避難できる」「わからない」22.2%となっている。

第9節　社会参加や地域での生活について

1. 地域活動について

（1）地域の人とのつきあい

【図 9-1-1　地域の人とのつきあい（全体・調査別）】



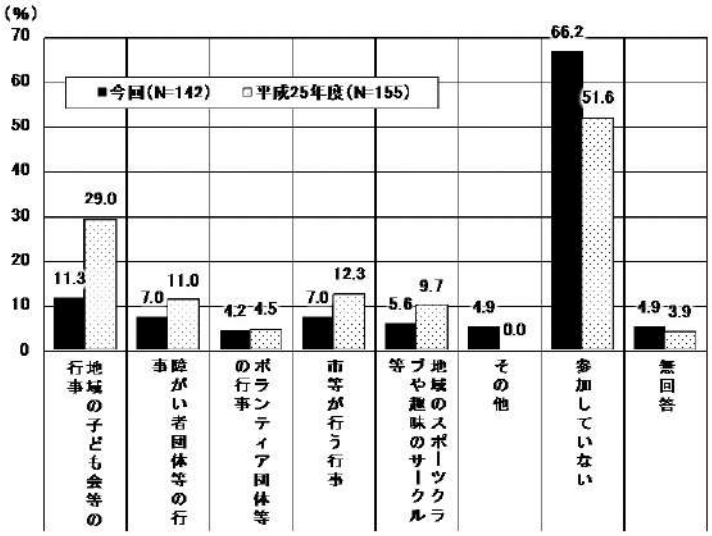
身体障がい者では、「会えばあいさつしあう程度」63.5%が最も多く、次いで、「世間話をする」36.8%、「自治会等の地域活動に一緒に参加する」14.2%、「入所・通所している施設の行事等で交流する」「つきあいはしていない」10.6%となっている。

知的障がい者では、「会えばあいさつしあう程度」46.8%が最も多く、次いで、「つきあいはしていない」30.7%、「入所・通所している施設の行事等で交流する」20.6%、「世間話をする」6.0%、「自治会等の地域活動に一緒に参加する」5.0%となっている。

精神障がい者では、「会えばあいさつしあう程度」72.8%が最も多く、次いで、「世間話をする」23.0%、「つきあいはしていない」16.1%、「入所・通所している施設の行事等で交流する」6.5%、「自治会等の地域活動に一緒に参加する」5.5%となっている。

（2）障がい児の地域活動等への参加状況

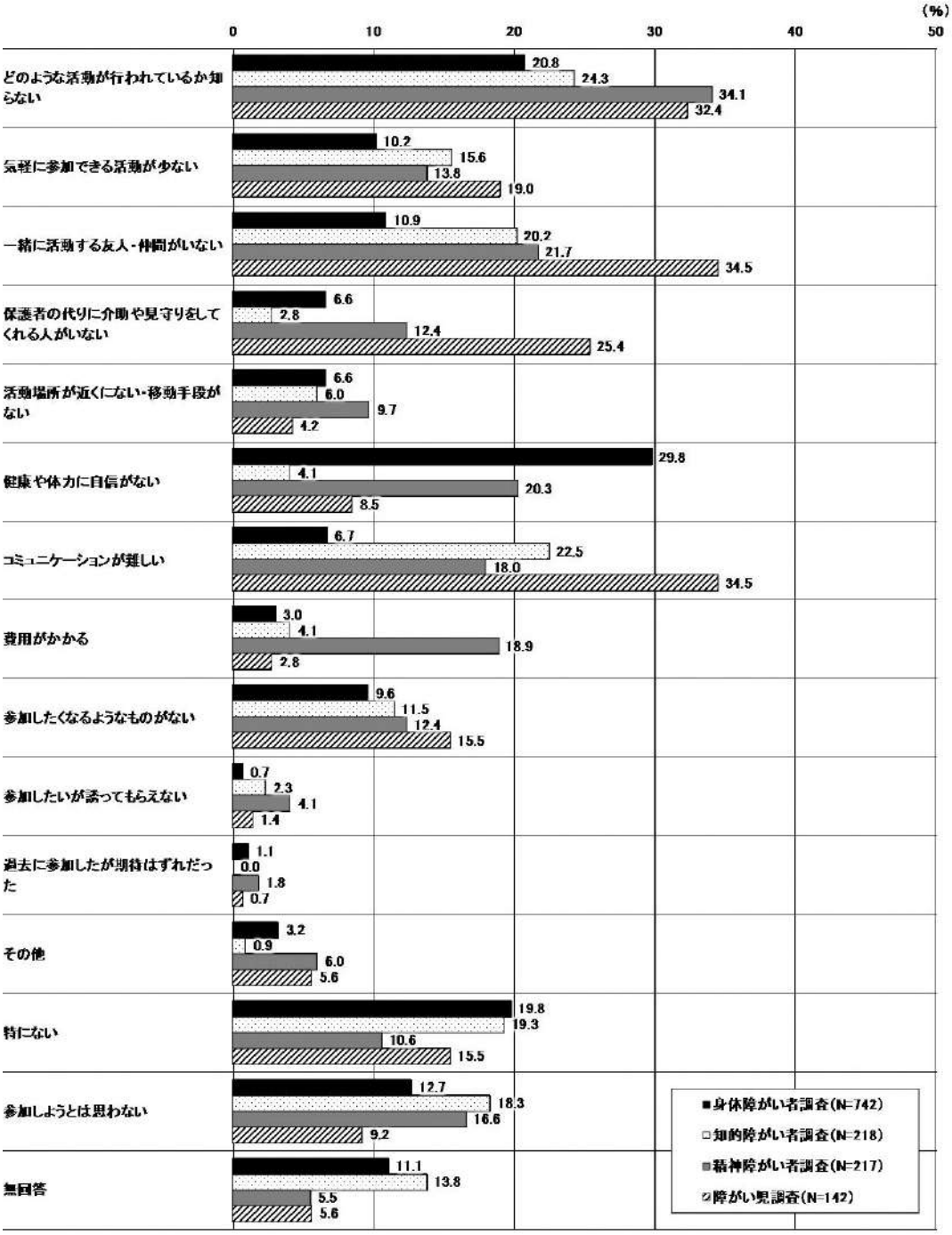
【図 9-1-2　障がい児の地域活動等への参加状況（全体・時系列）】



障がい児が地域の行事や活動へ参加しているかでは、「参加していない」66.2%が最も多く、次いで、「地域の子ども会等の行事」11.3%、「障がい者団体等の行事」「市等が行う行事」7.0%、「地域のスポーツクラブや趣味のサークル等」5.6%となっている。

（3）地域活動に参加するときにさまたげとなること

【図 9-1-3　地域活動に参加するときにさまたげとなること（全体・調査別）】



身体障がい者では、「健康や体力に自信がない」29.8%が最も多く、次いで、「どのような活動が行われているか知らない」20.8%、「特にない」19.8%、「参加しようとは思わない」12.7%、「一緒に活動する友人・仲間がいない」10.9%となっている。

知的障がい者では、「どのような活動が行われているか知らない」24.3%が最も多く、次いで、「コミュニケーションが難しい」22.5%、「一緒に活動する友人・仲間がいない」20.2%、「特にない」19.3%、「参加しようとは思わない」18.3%となっている。

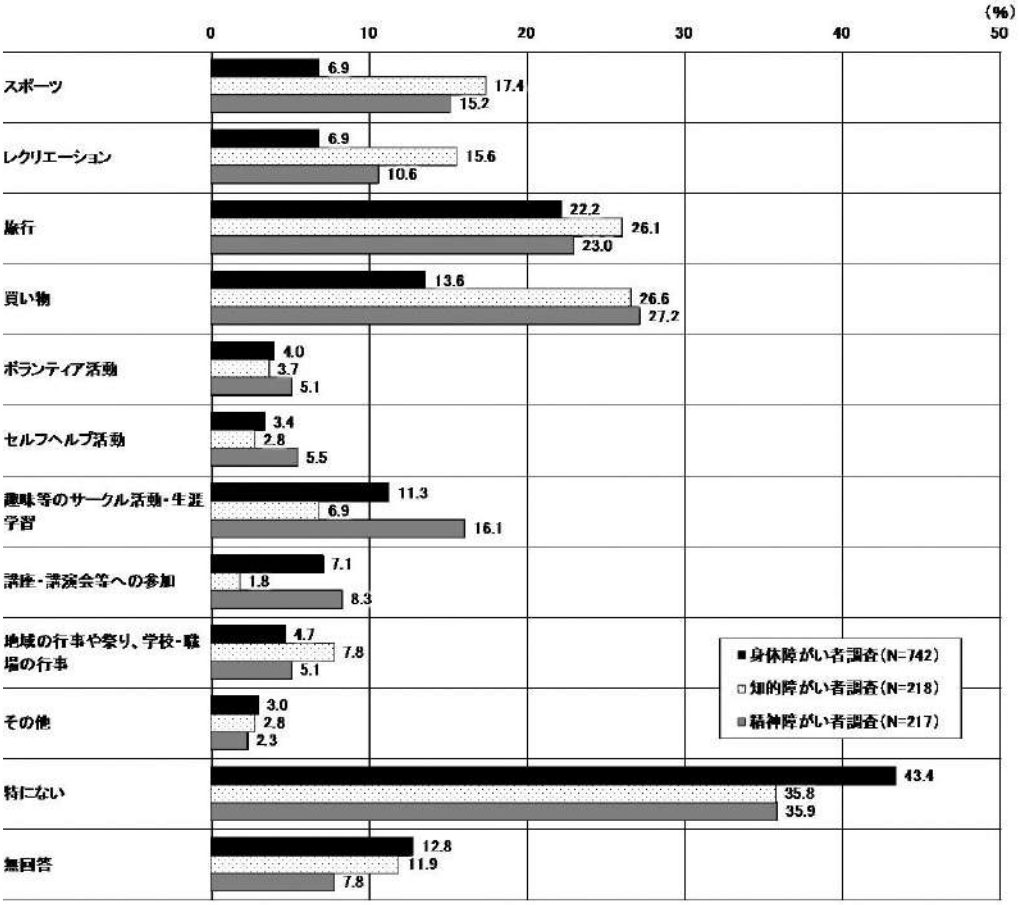
精神障がい者では、「どのような活動が行われているか知らない」34.1%が最も多く、次いで、「一緒に活動する友人・仲間がいない」21.7%、「健康や体力に自信がない」20.3%、「費用がかかる」18.9%、「コミュニケーションが難しい」18.0%となっている。

障がい児では、「一緒に活動する友人・仲間がいない」「コミュニケーションが難しい」34.5%が最も多く、次いで、「どのような活動が行われているか知らない」32.4%、「保護者の代りに介助や見守りをしてくれる人がいない」25.4%、「気軽に参加できる活動が少ない」19.0%となっている。

2. 余暇活動について

（1）参加したい余暇活動の内容

【図 9-2-1 参加したい余暇活動の内容（全体・調査別）】



身体障がい者では、「特にない」43.4%が最も多く、次いで、「旅行」22.2%、「買い物」13.6%、「趣味等のサークル活動・生涯学習」11.3%、「講座・講演会等への参加」7.1%となっている。

知的障がい者では、「特にない」35.8%が最も多く、次いで、「買い物」26.6%、「旅行」26.1%、「スポーツ」17.4%、「レクリエーション」15.6%となっている。

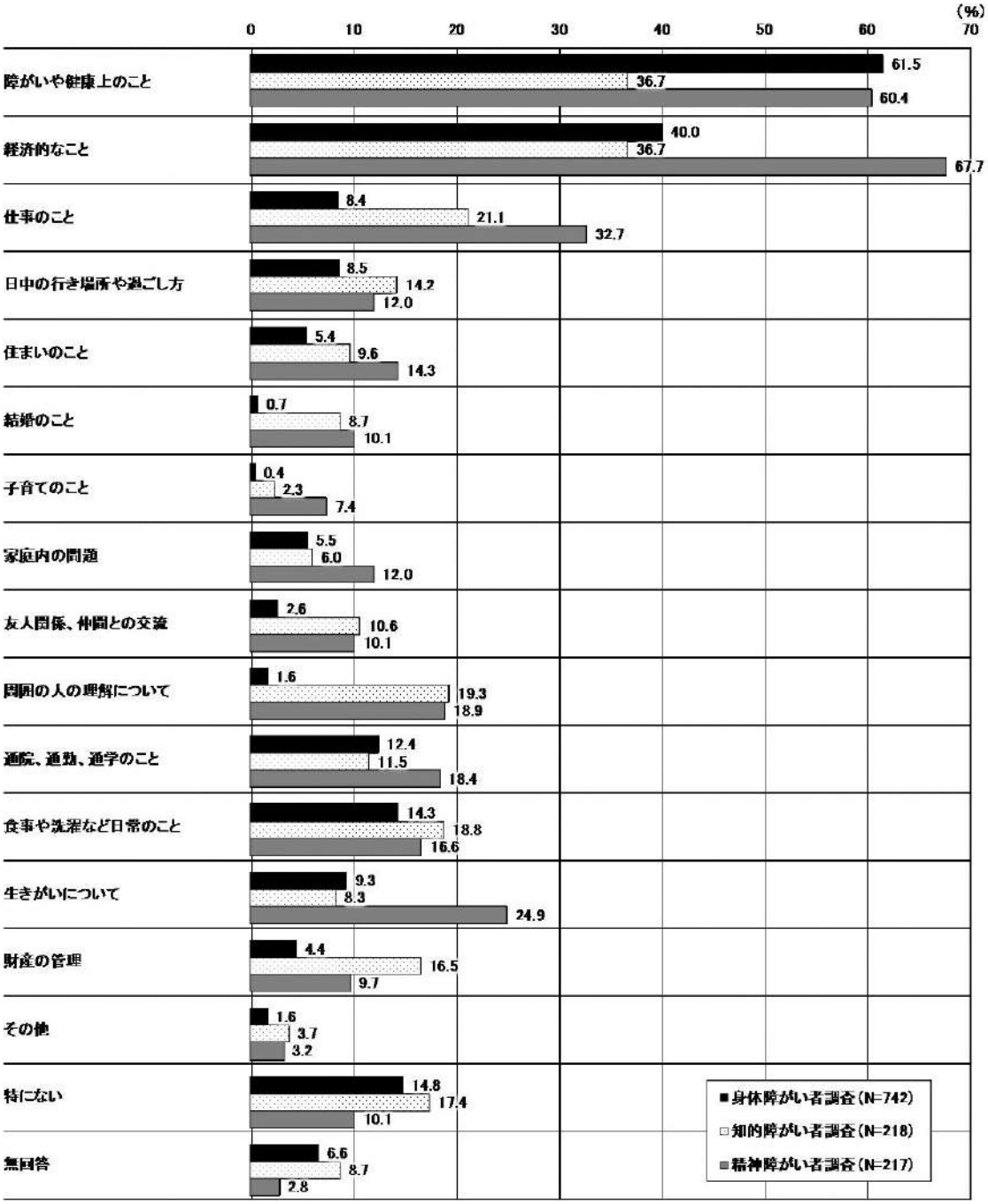
精神障がい者では、「特にない」35.9%が最も多く、次いで、「買い物」27.2%、「旅行」23.0%、「趣味等のサークル活動・生涯学習」16.1%、「スポーツ」15.2%となっている。

第 10 節　生活全般について

1. 生活上の不安・悩みや相談先について

（1）困っていることや将来に対する不安・悩み

【図 10-1-1　困っていることや将来に対する不安・悩み（全体・調査別）】



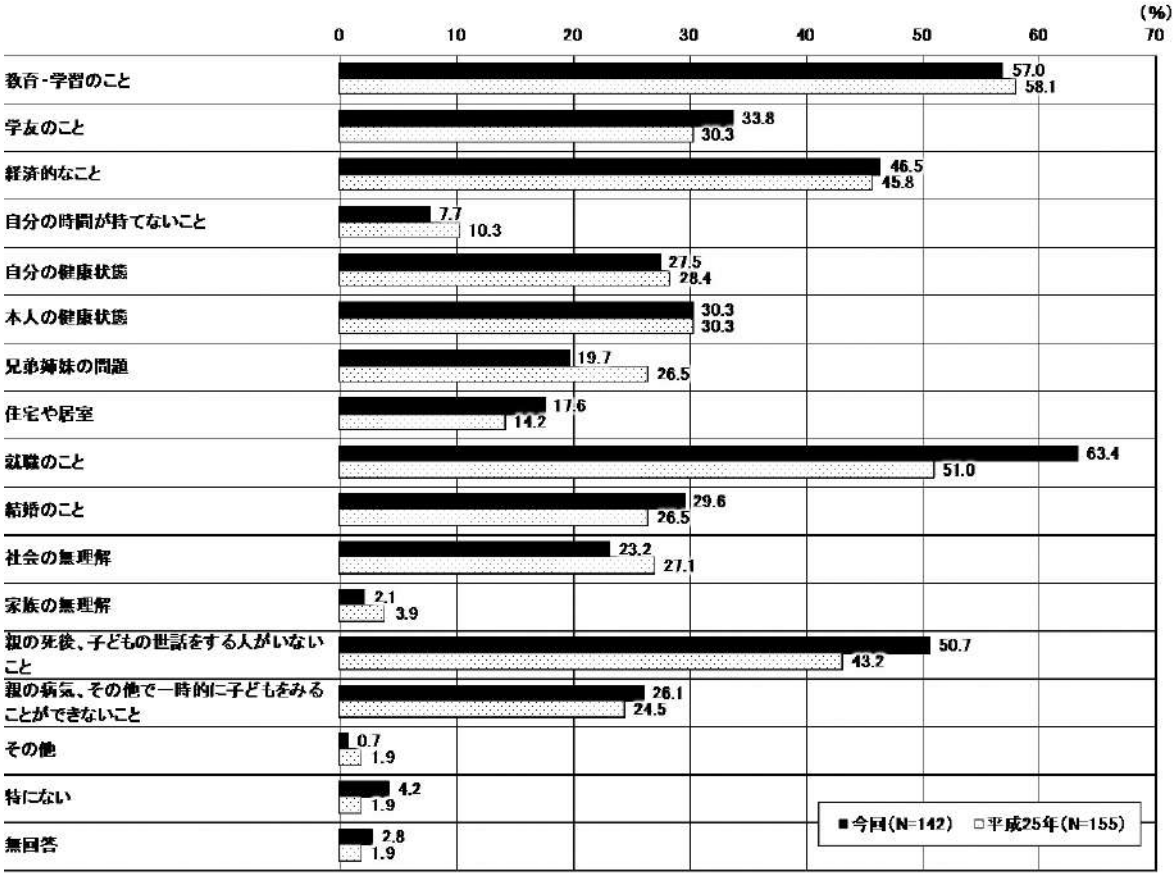
身体障がい者では、「障がいや健康上のこと」61.5%が最も多く、次いで、「経済的なこと」40.0%、「特にない」14.8%、「食事や洗濯など日常のこと」14.3%、「通院、通勤、通学のこと」12.4%となっている。

知的障がい者では、「障がいや健康上のこと」「経済的なこと」36.7%が最も多く、次いで、「仕事のこと」21.1%、「周囲の人の理解について」19.3%、「食事や洗濯など日常のこと」18.8%となっている。

精神障がい者では、「経済的なこと」67.7%が最も多く、次いで、「障がいや健康上のこと」60.4%、「仕事のこと」32.7%、「生きがいについて」24.9%、「周囲の人の理解について」18.9%となっている。

（2）障がい児を育てていく上で困っていることや将来に対する不安・悩み

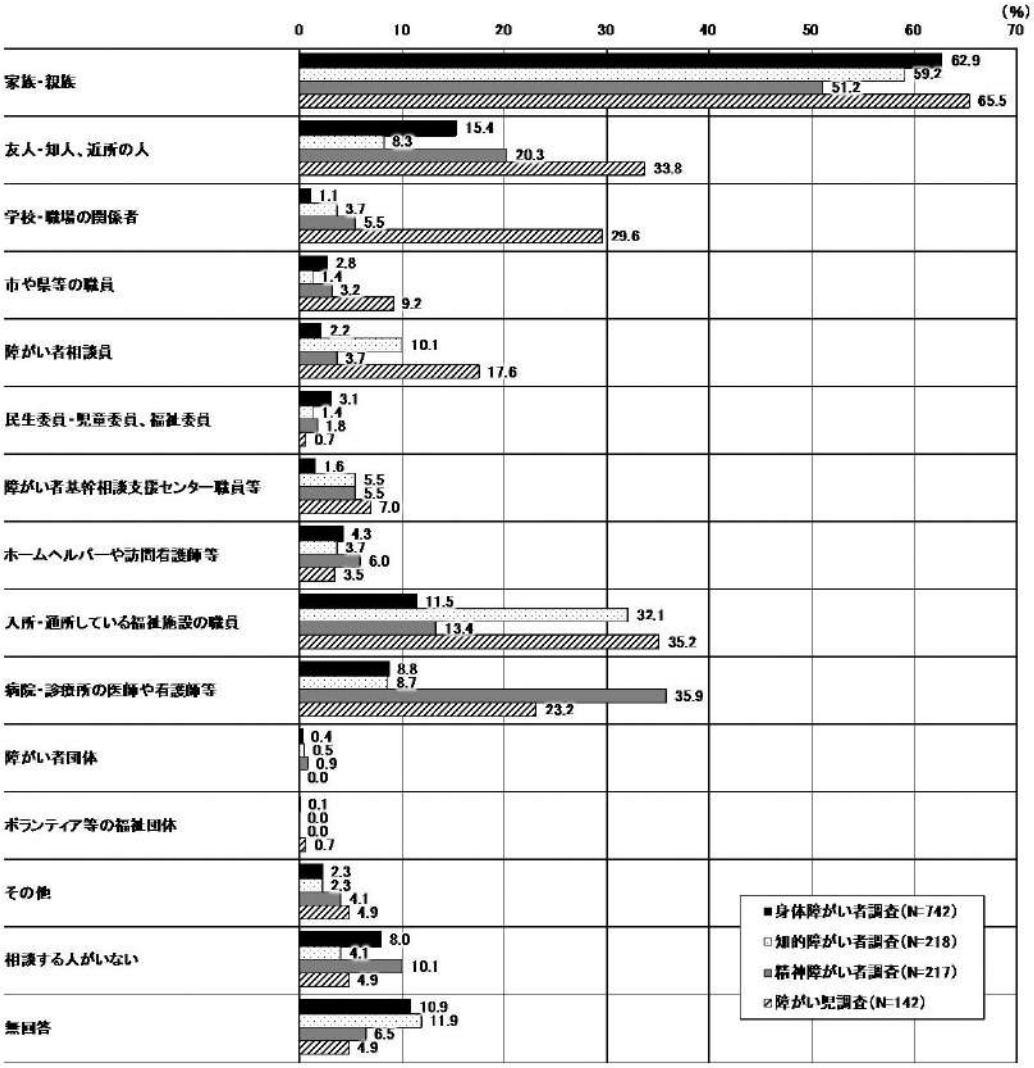
【図 10-1-2　障がい児を育てていく上で困っていることや将来に対する不安・悩み（全体・時系列）】



障がい児を育てていく上で困っていることや、将来に対する不安・悩みでは、「就職のこと」63.4%が最も多く、次いで、「教育・学習のこと」57.0%、「親の死後、子どもの世話をする人がいないこと」50.7%、「経済的なこと」46.5%、「学友のこと」33.8%となっている。

（3）困っていることや不安・悩みの相談先

【図 10-1-3　困っていることや不安・悩みの相談先（全体・調査別）】



※『障がい児調査』では、他調査の「学校・職場の関係者」を「保育士や学校の先生等」と比較している。

身体障がい者では、「家族・親族」62.9%が最も多く、次いで、「友人・知人、近所の人」15.4%、「入所・通所している福祉施設の職員」11.5%、「病院・診療所の医師や看護師等」8.8%、「相談する人がいない」8.0%となっている。

知的障がい者では、「家族・親族」59.2%が最も多く、次いで、「入所・通所している福祉施設の職員」32.1%、「障がい者相談員」10.1%、「病院・診療所の医師や看護師等」8.7%、「友人・知人、近所の人」8.3%となっている。

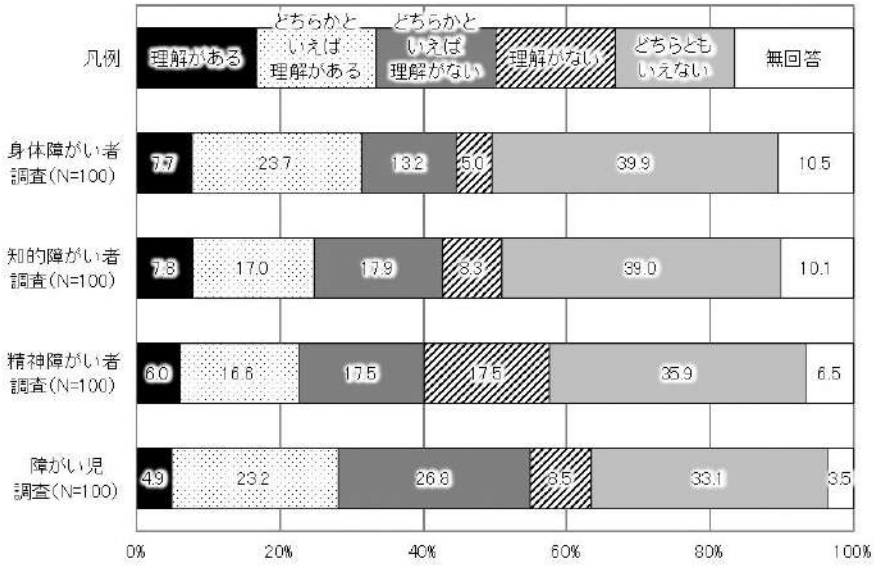
精神障がい者では、「家族・親族」51.2%が最も多く、次いで、「病院・診療所の医師や看護師等」35.9%、「友人・知人、近所の人」20.3%、「入所・通所している福祉施設の職員」13.4%、「相談する人がいない」10.1%となっている。

障がい児では、「家族・親族」65.5%が最も多く、次いで、「入所・通所している福祉施設の職員」35.2%、「友人・知人、近所の人」33.8%、「学校・職場の関係者」29.6%、「病院・診療所の医師や看護師等」23.2%となっている。

2. 障がい者に対する市民の理解について

（1）障がい者に対する市民の理解について

【図 10-2-1　障がい者に対する市民の理解について（全体・調査別）】



身体障がい者では、「どちらともいえない」39.9%が最も多く、次いで、「どちらかといえば理解がある」23.7%、「どちらかといえば理解がない」13.2%、「理解がある」7.7%、「理解がない」5.0%となっている。

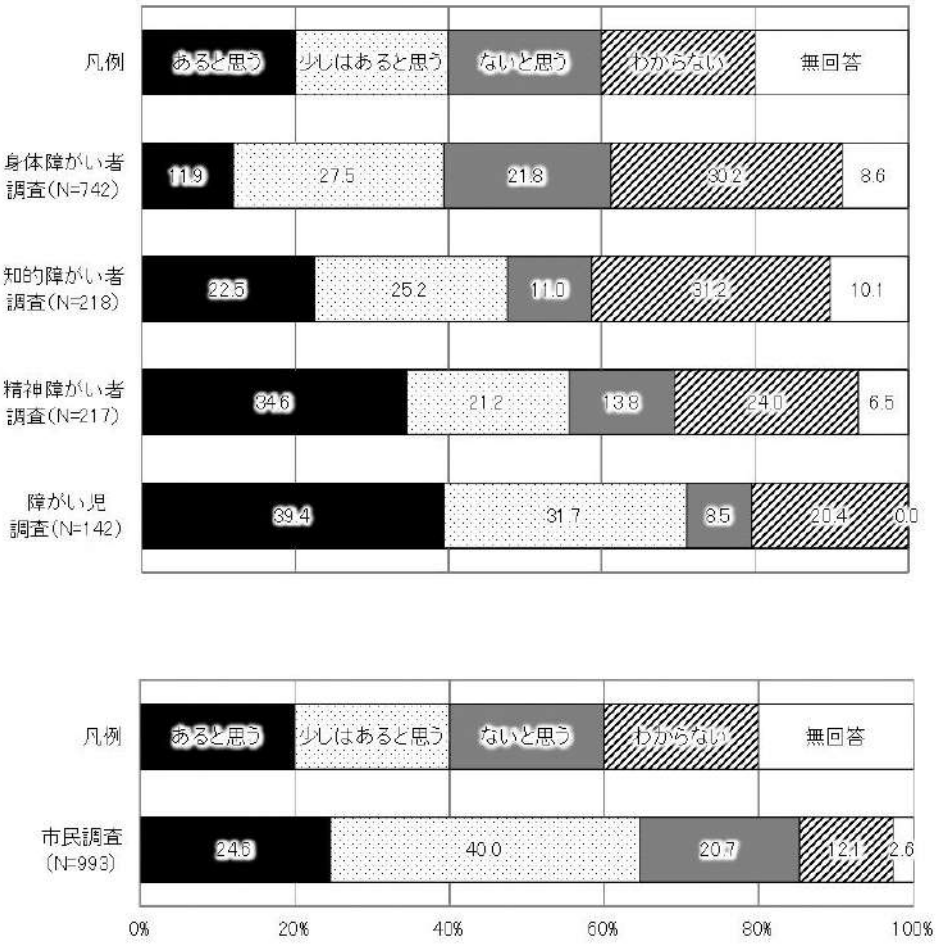
知的障がい者では、「どちらともいえない」39.0%が最も多く、次いで、「どちらかといえば理解がない」17.9%、「どちらかといえば理解がある」17.0%、「理解がない」8.3%、「理解がある」7.8%となっている。

精神障がい者では、「どちらともいえない」35.9%が最も多く、次いで、「どちらかといえば理解がない」17.5%、「理解がない」17.5%、「どちらかといえば理解がある」16.6%、「理解がある」6.0%となっている。

障がい児では、「どちらともいえない」33.1%が最も多く、次いで、「どちらかといえば理解がない」26.8%、「どちらかといえば理解がある」23.2%、「理解がない」8.5%、「理解がある」4.9%となっている。

（2）障がい者への差別や偏見

【図 10-2-2　障がい者への差別や偏見（全体・調査別）】



身体障がい者では、「わからない」30.2%が最も多く、次いで、「少しはあると思う」27.5%、「ないと思う」21.8%、「あると思う」11.9%となっている。

知的障がい者では、「わからない」31.2%が最も多く、次いで、「少しはあると思う」25.2%、「あると思う」22.5%、「ないと思う」11.0%となっている。

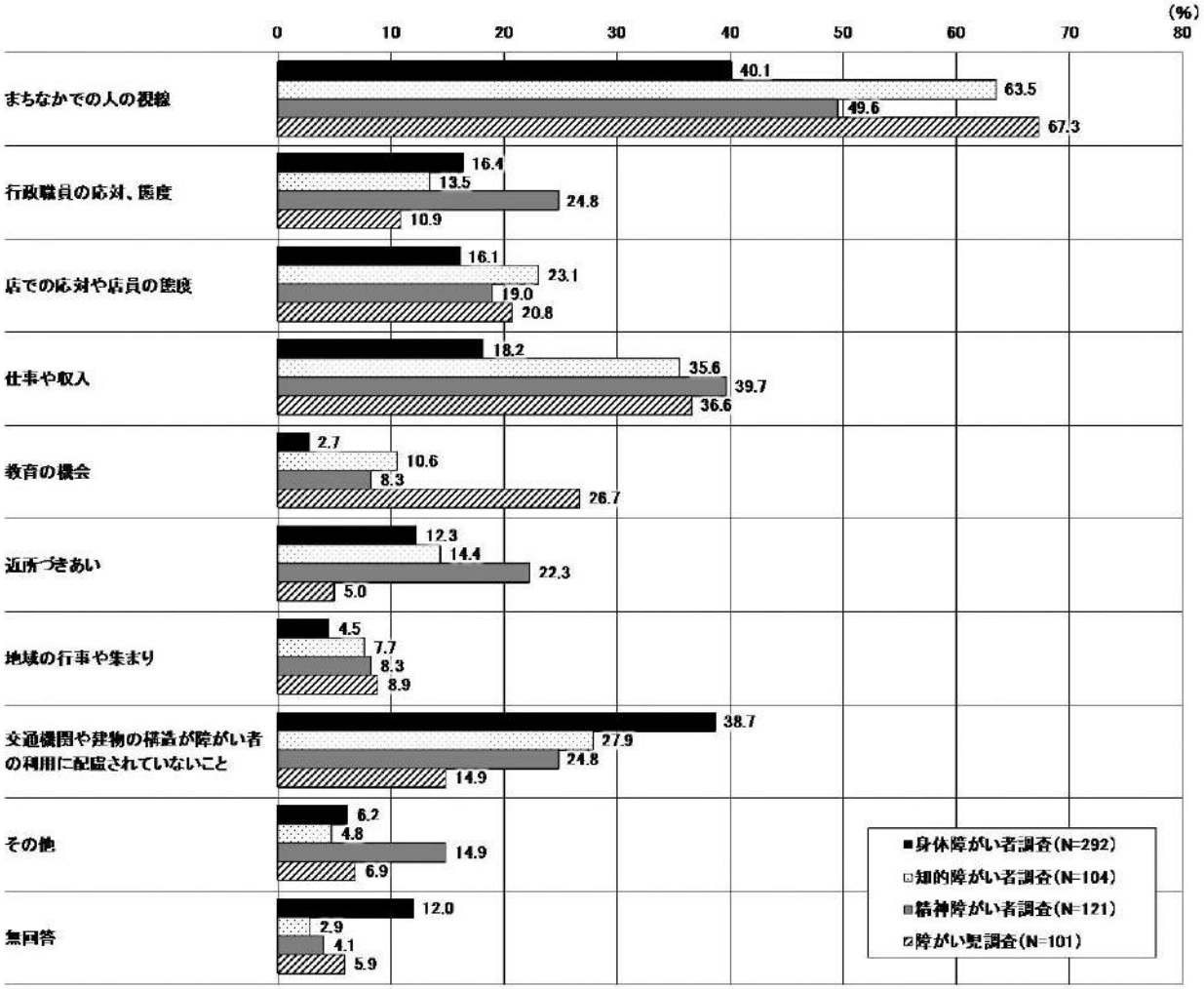
精神障がい者では、「あると思う」34.6%が最も多く、次いで、「わからない」24.0%、「少しはあると思う」21.2%、「ないと思う」13.8%となっている。

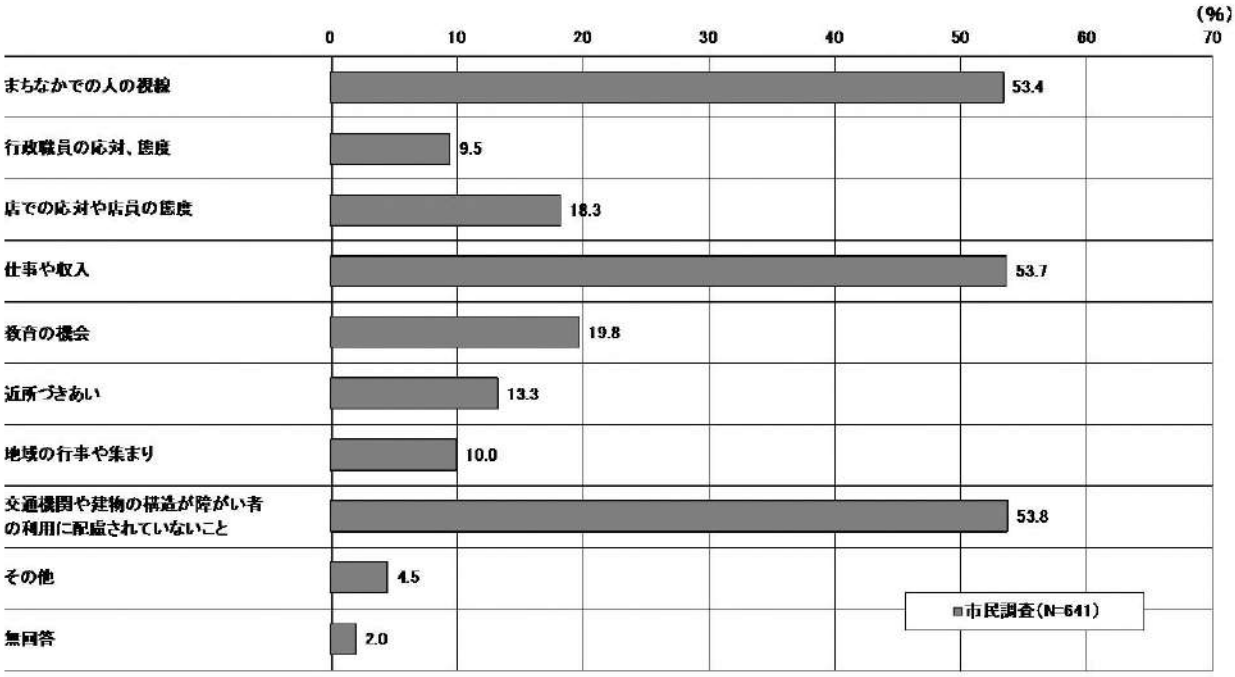
障がい児では、「あると思う」39.4%が最も多く、次いで、「少しはあると思う」31.7%、「わからない」20.4%、「ないと思う」8.5%となっている。

市民では、「少しはあると思う」40.0%が最も多く、次いで、「あると思う」24.6%、「ないと思う」20.7%、「わからない」12.1%となっている。

（3）差別や偏見を感じる場所

【図 10-2-3　差別や偏見を感じる場所（全体・調査別）】





身体障がい者では、「まちなかでの人の視線」40.1%が最も多く、次いで、「交通機関や建物の構造が障がい者の利用に配慮されていないこと」38.7%、「仕事や収入」18.2%、「行政職員の応対、態度」16.4%、「店での応対や店員の態度」16.1%となっている。

知的障がい者では、「まちなかでの人の視線」63.5%が最も多く、次いで、「仕事や収入」35.6%、「交通機関や建物の構造が障がい者の利用に配慮されていないこと」27.9%、「店での応対や店員の態度」23.1%、「近所づきあい」14.4%となっている。

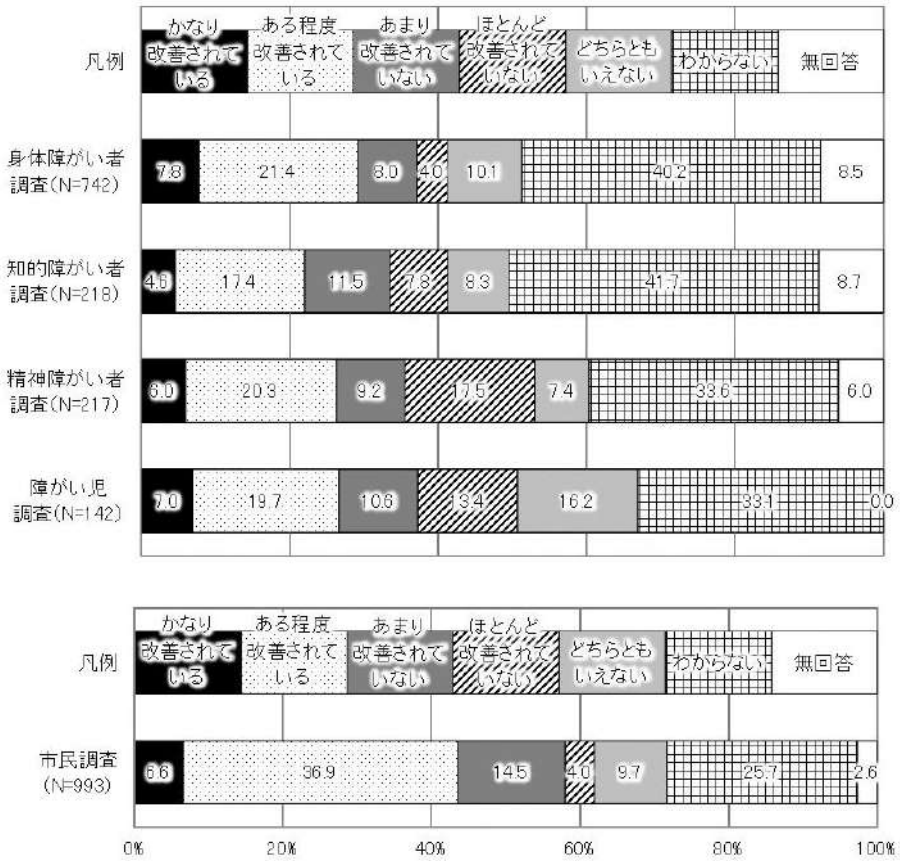
精神障がい者では、「まちなかでの人の視線」49.6%が最も多く、次いで、「仕事や収入」39.7%、「行政職員の応対、態度」「交通機関や建物の構造が障がい者の利用に配慮されていないこと」24.8%、「近所づきあい」22.3%となっている。

障がい児では、「まちなかでの人の視線」67.3%が最も多く、次いで、「仕事や収入」36.6%、「教育の機会」26.7%、「店での応対や店員の態度」20.8%、「交通機関や建物の構造が障がい者の利用に配慮されていないこと」14.9%となっている。

市民では、「交通機関や建物の構造が障がい者の利用に配慮されていないこと」53.8%が最も多く、次いで、「仕事や収入」53.7%、「まちなかでの人の視線」53.4%、「教育の機会」19.8%、「店での応対や店員の態度」18.3%となっている。

（4）5年前と比べた障がい者への差別や偏見の改善状況

【図 10-2-4　5年前と比べた障がい者への差別や偏見の改善状況（全体・調査別）】



身体障がい者では、「わからない」40.2%が最も多く、次いで、「ある程度改善されている」21.4%、「どちらともいえない」10.1%、「あまり改善されていない」8.0%、「かなり改善されている」7.8%となっている。

知的障がい者では、「わからない」41.7%が最も多く、次いで、「ある程度改善されている」17.4%、「あまり改善されていない」11.5%、「どちらともいえない」8.3%、「ほとんど改善されていない」7.8%となっている。

精神障がい者では、「わからない」33.6%が最も多く、次いで、「ある程度改善されている」20.3%、「ほとんど改善されていない」17.5%、「あまり改善されていない」9.2%、「どちらともいえない」7.4%となっている。

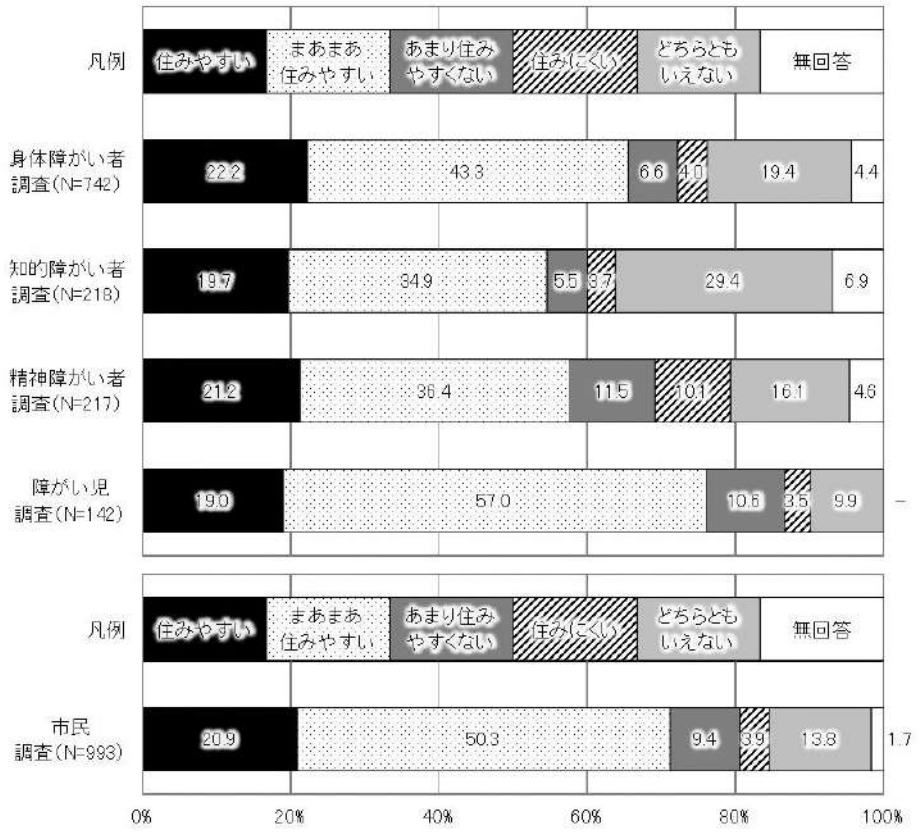
障がい児では、「わからない」33.1%が最も多く、次いで、「ある程度改善されている」19.7%、「どちらともいえない」16.2%、「ほとんど改善されていない」13.4%、「あまり改善されていない」10.6%となっている。

市民では、「ある程度改善されている」36.9%が最も多く、次いで、「わからない」25.7%、「あまり改善されていない」14.5%、「どちらともいえない」9.7%、「かなり改善されている」6.6%となっている。

第 11 節　現在の飯塚市について

1. 飯塚市の住みやすさ

【図 11-1-1　飯塚市の住みやすさ(全体・調査別)】



身体障がい者では、「まあまあ住みやすい」43.3%が最も多く、次いで、「住みやすい」22.2%、「どちらともいえない」19.4%、「あまり住みやすくない」6.6%、「住みにくい」4.0%となっている。

知的障がい者では、「まあまあ住みやすい」34.9%が最も多く、次いで、「どちらともいえない」29.4%、「住みやすい」19.7%、「あまり住みやすくない」5.5%、「住みにくい」3.7%となっている。

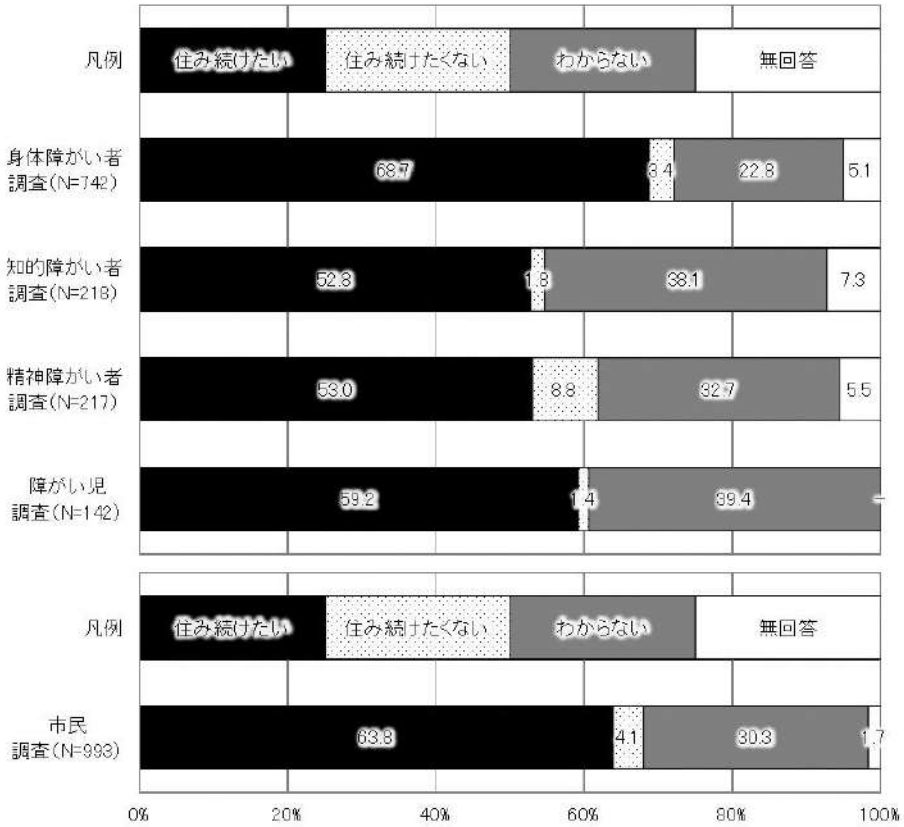
精神障がい者では、「まあまあ住みやすい」36.4%が最も多く、次いで、「住みやすい」21.2%、「どちらともいえない」16.1%、「あまり住みやすくない」11.5%、「住みにくい」10.1%となっている。

障がい児では、「まあまあ住みやすい」57.0%が最も多く、次いで、「住みやすい」19.0%、「あまり住みやすくない」10.6%、「どちらともいえない」9.9%、「住みにくい」3.5%となっている。

市民では、「まあまあ住みやすい」50.3%が最も多く、次いで、「住みやすい」20.9%、「どちらともいえない」13.8%、「あまり住みやすくない」9.4%、「住みにくい」3.9%となっている。

2. 飯塚市に住み続けたいか

【図 11-2-1 飯塚市に住み続けたいか（全体・調査別）】



身体障がい者では、「住み続けたい」68.7%が最も多く、以下「わからない」22.8%、「住み続けたくない」3.4%となっている。

知的障がい者では、「住み続けたい」52.8%が最も多く、以下「わからない」38.1%、「住み続けたくない」1.8%となっている。

精神障がい者では、「住み続けたい」53.0%が最も多く、以下「わからない」32.7%、「住み続けたくない」8.8%となっている。

障がい児では、「住み続けたい」59.2%が最も多く、以下「わからない」39.4%、「住み続けたくない」1.4%となっている。

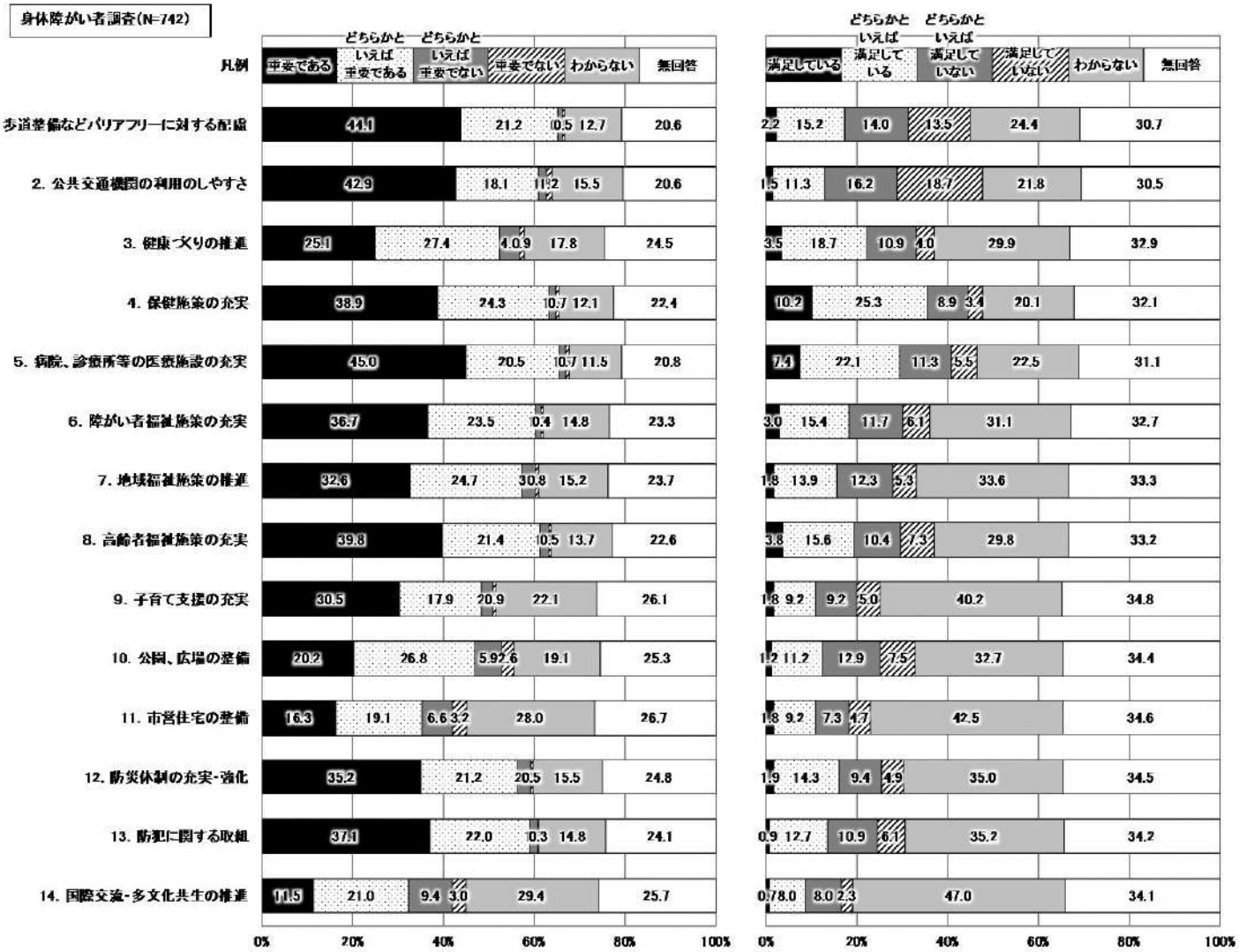
市民では、「住み続けたい」63.8%が最も多く、以下「わからない」30.3%、「住み続けたくない」4.1%となっている。

第 12 節　福祉全般について

1. 障がい者福祉施策について

（1）本市のまちづくりにとって、重要だと思う施策や取組

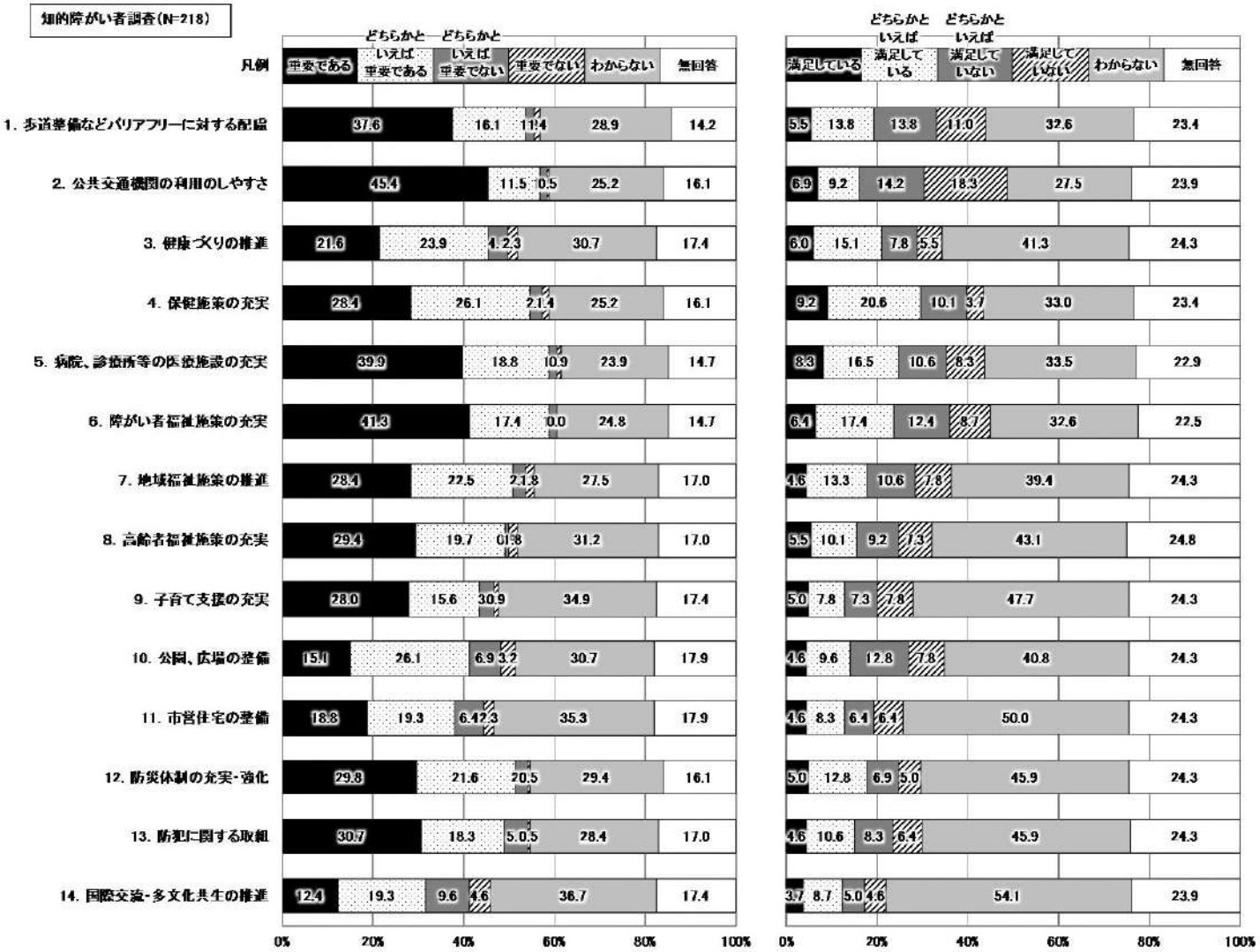
【図 12-1-1　障がい者福祉施策として行政が充実すべきこと（全体・身体障がい者調査別）】



身体障がい者では、「重要である」の割合は「５．病院・診療所等の医療施設の充実」45.0%が最も高く、次いで、「１．歩道整備などバリアフリーに対する配慮」44.1%、「２．公共交通機関の利用のしやすさ」42.9%となっている。

「満足している」では「４．保健施策の充実」10.2%が最も高く、次いで「５．病院・診療所等の医療施設の充実」7.4%、「８．高齢者福祉施策の充実」3.8%となっている。

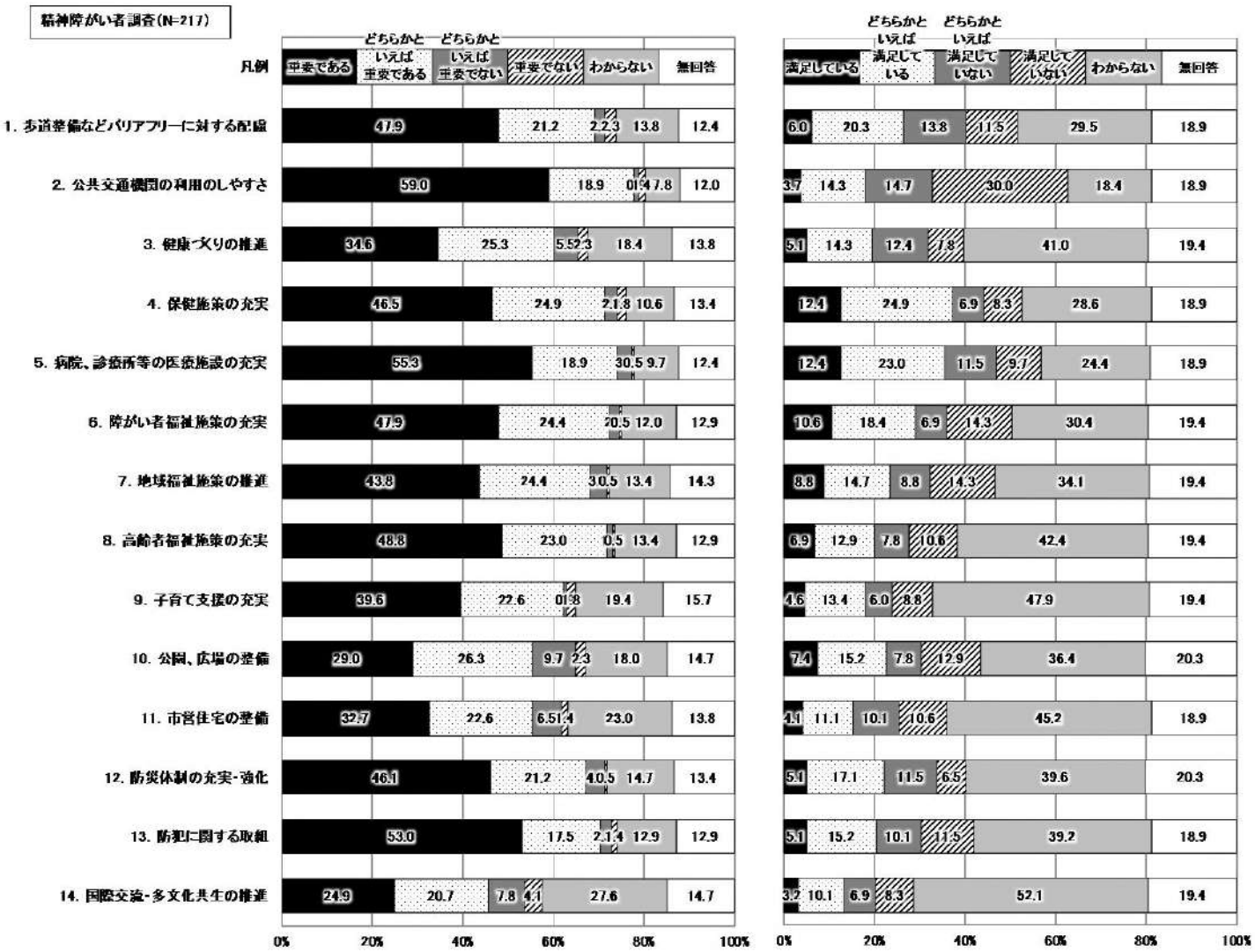
【図 12-1-1　障がい者福祉施策として行政が充実すべきこと（全体・知的障がい者調査別）】



知的障がい者では、「重要である」の割合は「２．公共交通機関の利用のしやすさ」45.4%が最も高く、次いで「６．障がい者福祉施策の充実」41.3%、「５．病院・診療所等の医療施設の充実」39.9%となっている。

「満足している」では「４．保健施策の充実」9.2%が最も高く、次いで、「５．病院・診療所等の医療施設の充実」8.3%、「２．公共交通機関の利用のしやすさ」6.9%となっている。

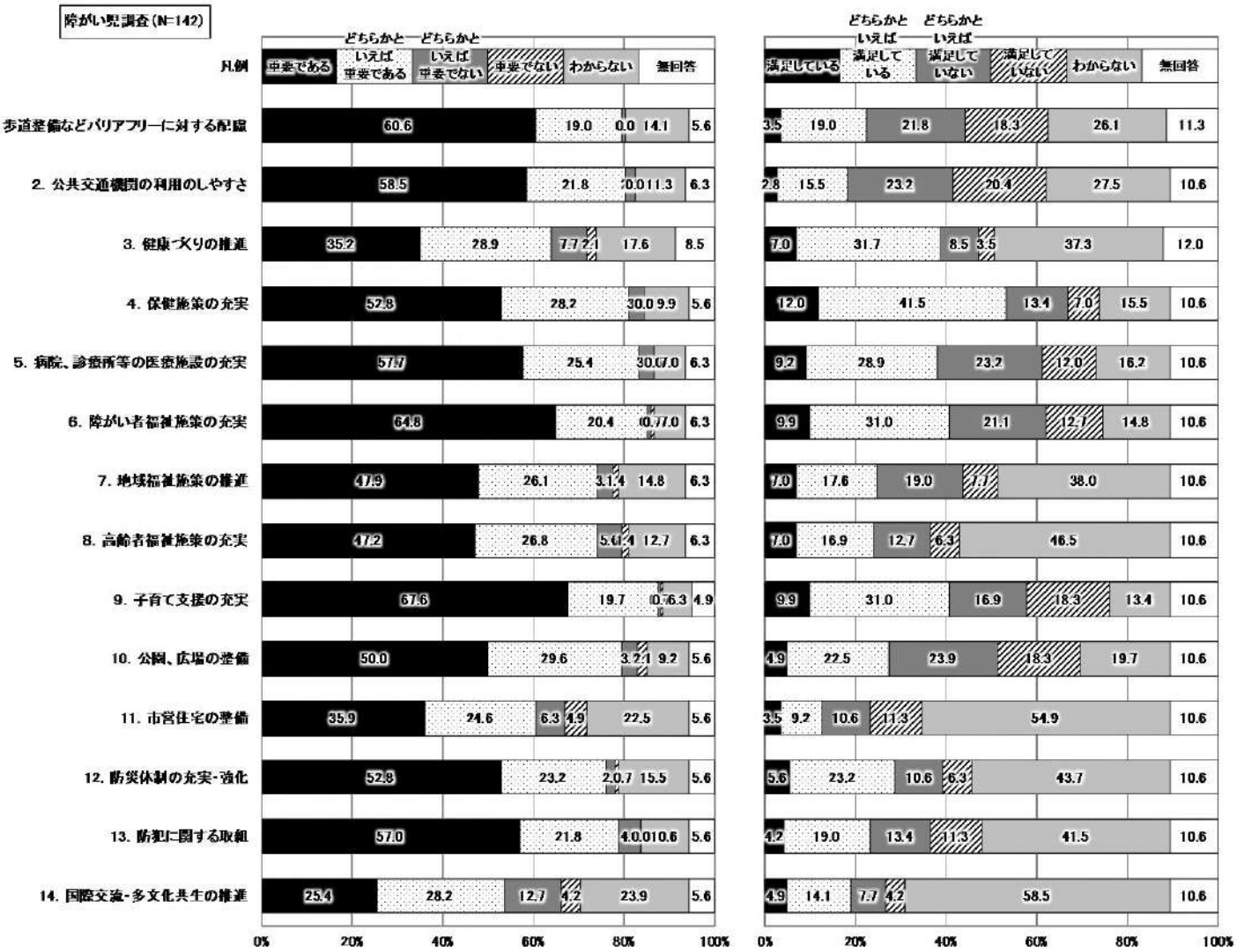
【図 12-1-1 障がい者福祉施策として行政が充実すべきこと（全体・精神障がい者調査別）】



精神障がい者では、「重要である」の割合が「２．公共交通機関の利用のしやすさ」59.0％で最も高く、次いで「５．病院・診療所等の医療施設の充実」55.3％、「13．防犯に関する取組」53.0％となっている。

「満足している」では、「４．保健施策の充実」「５．病院・診療所等の医療施設の充実」12.4％が最も多く、次いで、「６．障がい者福祉施策の充実」10.6％、「７．地域福祉施策の推進」8.8％となっている。

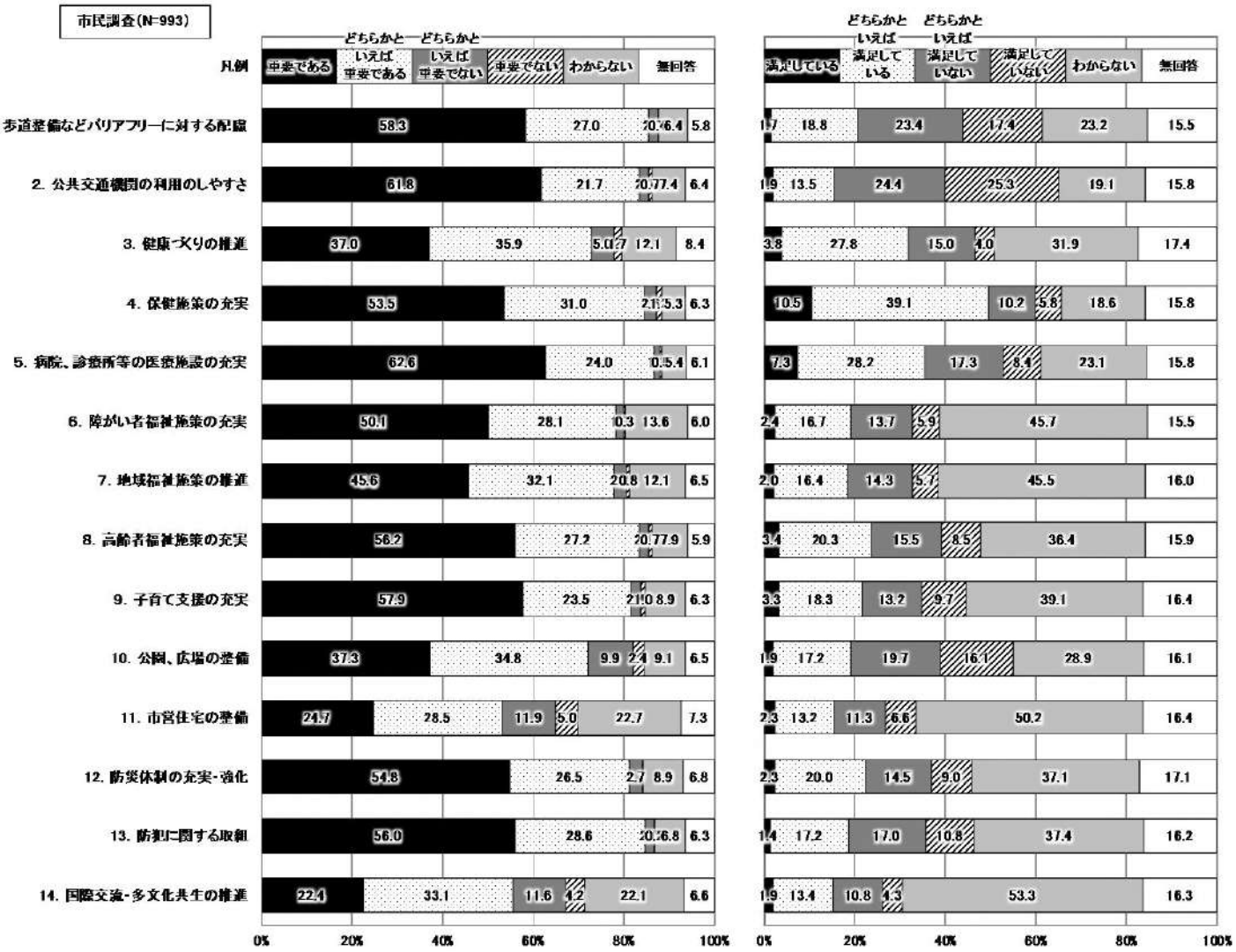
【図 12-1-1 障がい者福祉施策として行政が充実すべきこと（全体・障がい児調査別）】



障がい児では、「重要である」の割合が「９．子育て支援の充実」67.6%で最も高く、次いで「６．障がい者福祉施策の充実」64.8%、「１．歩道整備などバリアフリーに対する配慮」60.6%となっている。

「満足している」では、「４．保健施策の充実」12.0%が最も高く、次いで、「６．障がい者福祉施策の充実」「９．子育て支援の充実」9.9%、「５．病院・診療所等の医療施設の充実」9.2%となっている。

【図 12-1-1　障がい者福祉施策として行政が充実すべきこと（全体・市民調査別）】

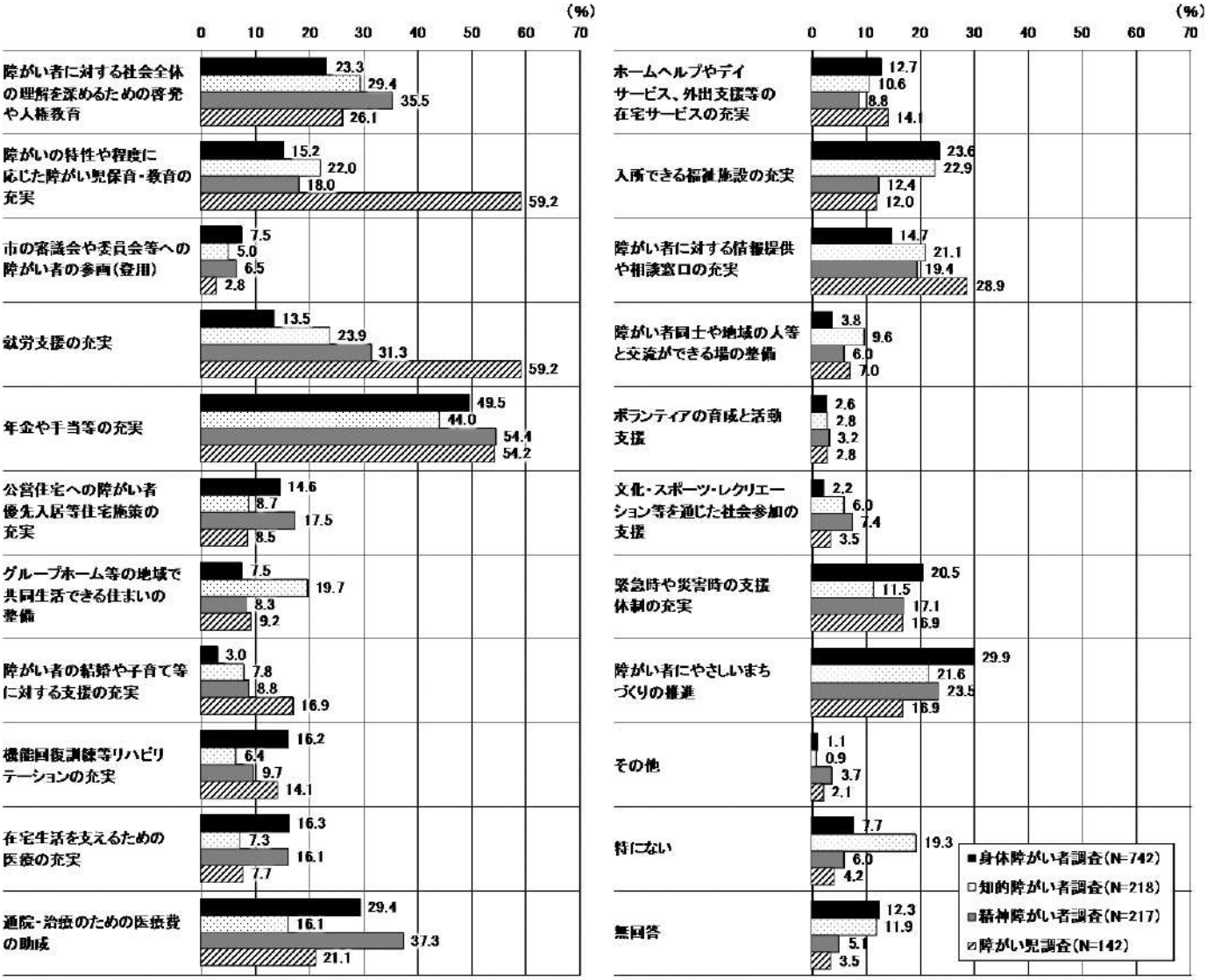


市民では、「重要である」の割合が「５．病院・診療所等の医療施設の充実」62.6%で最も高く、次いで「２．公共交通機関の利用のしやすさ」61.8%、「１．歩道整備などバリアフリーに対する配慮」58.3%となっている。

「満足している」では「４．保健施策の充実」10.5%が最も高く、次いで「５．病院・診療所等の医療施設の充実」7.3%、「３．健康づくりの推進」3.8%となっている。

（2）障がい者福祉施策として行政が充実すべきこと

【図 12-1-2　障がい者福祉施策として行政が充実すべきこと（全体・調査別）】



身体障がい者では、「年金や手当等の充実」49.5%が最も多く、次いで、「障がい者にやさしいまちづくりの推進（公共施設や民間施設、公共交通機関、道路等のバリアフリー化やユニバーサルデザイン化）」29.9%、「通院・治療のための医療費の助成」29.4%、「入所できる福祉施設の充実」23.6%、「障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や人権教育の充実」23.3%となっている。

知的障がい者では、「年金や手当等の充実」44.0%が最も多く、次いで、「障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や人権教育の充実」29.4%、「就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介、就労後の指導や支援等）」23.9%、「入所できる福祉施設の充実」22.9%、「障がいの特性や程度に応じた障がい児保育・教育の充実」22.0%となっている。

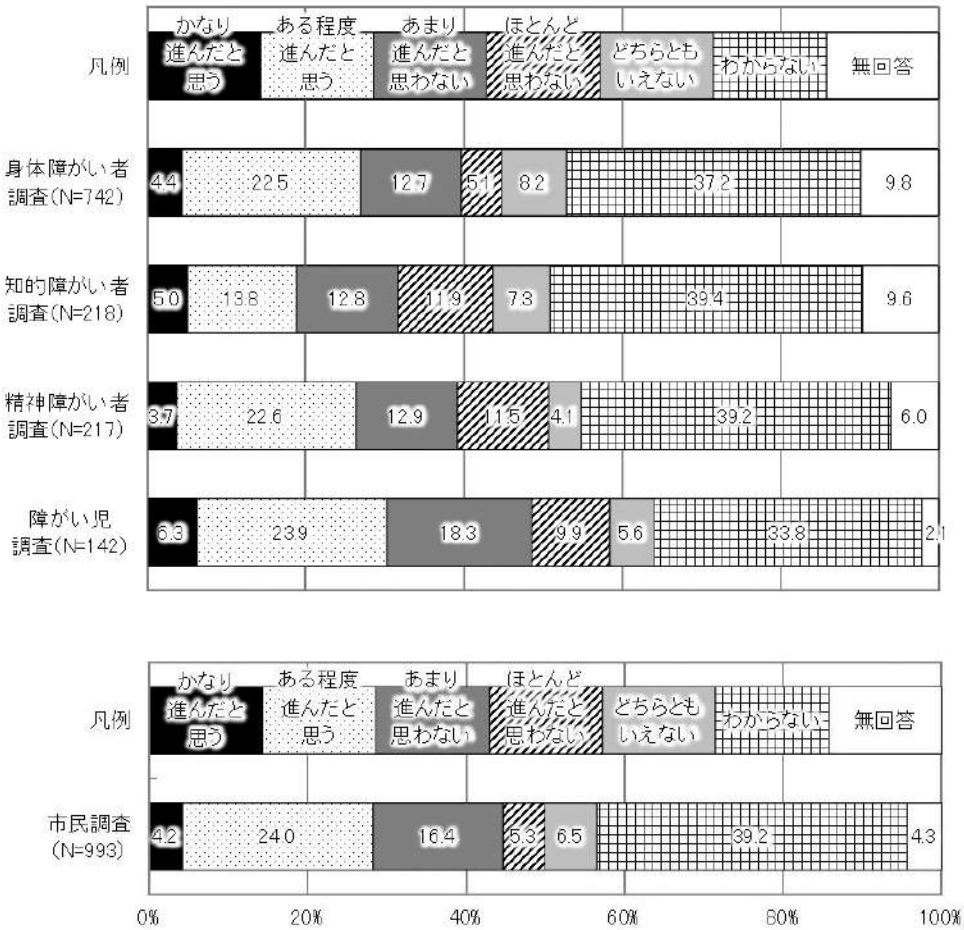
精神障がい者では、「年金や手当等の充実」54.4%が最も多く、次いで、「通院・治療のための医療費の助成」37.3%、「障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や人権教育の充実」35.5%、「就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介、就労後の指導や支援等）」31.3%、「障がい者にやさしいまちづ

くりの推進（公共施設や民間施設、公共交通機関、道路等のバリアフリー化やユニバーサルデザイン化）」23.5%となっている。

障がい児では、「障がいの特性や程度に応じた障がい児保育・教育の充実」「就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介、就労後の指導や支援等）」59.2%が最も多く、次いで、「年金や手当等の充実」54.2%、「障がい者に対する情報提供や相談窓口の充実」28.9%、「障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や人権教育の充実」26.1%となっている。

（3）5年前と比べた福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策の進捗状況

【図 12-1-3　5年前と比べた福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策の進捗状況（全体・調査別）】



身体障がい者では、「わからない」37.2%が最も多く、次いで、「ある程度進んだと思う」22.5%、「あまり進んだと思わない」12.7%、「どちらともいえない」8.2%、「ほとんど進んだと思わない」5.1%となっている。

知的障がい者では、「わからない」39.4%が最も多く、次いで、「ある程度進んだと思う」13.8%、「あまり進んだと思わない」12.8%、「ほとんど進んだと思わない」11.9%、「どちらともいえない」7.3%となっている。

精神障がい者では、「わからない」39.2%が最も多く、次いで、「ある程度進んだと思う」22.6%、「あまり進んだと思わない」12.9%、「ほとんど進んだと思わない」11.5%、「どちらともいえない」4.1%となっている。

障がい児では、「わからない」33.8%が最も多く、次いで、「ある程度進んだと思う」23.9%、「あまり進んだと思わない」18.3%、「ほとんど進んだと思わない」9.9%、「かなり進んだと思う」6.3%となっている。

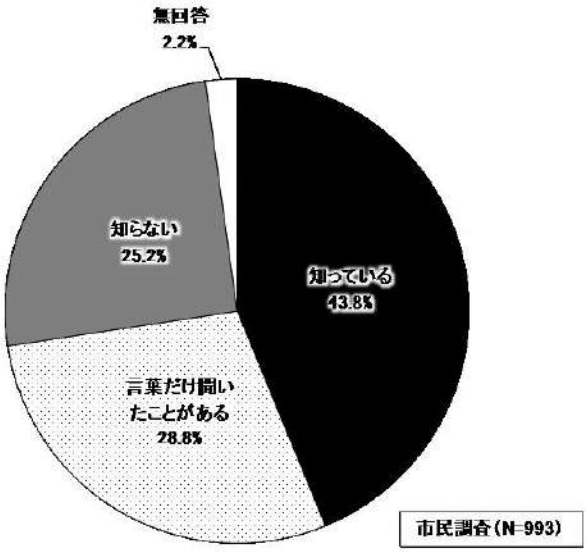
市民では、「わからない」39.2%が最も多く、次いで、「ある程度進んだと思う」24.0%、「あまり進んだと思わない」16.4%、「どちらともいえない」6.5%、「ほとんど進んだと思わない」5.3%となっている。

第 13 節　市民調査

1. 障がい者福祉に関連する言葉について

（1）「共生社会」の認知状況

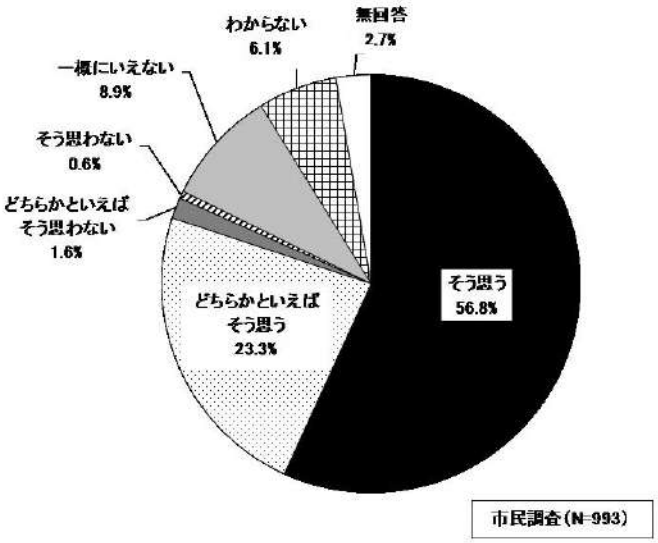
【図 13-1-1 「共生社会」の認知状況（全体）】



「共生社会」という考え方の認知では、「知っている」43.8%が最も多く、次いで、「言葉だけは聞いたことがある」28.8%、「知らない」25.2%となっている。

(2)「共生社会」に基づいた考え方について

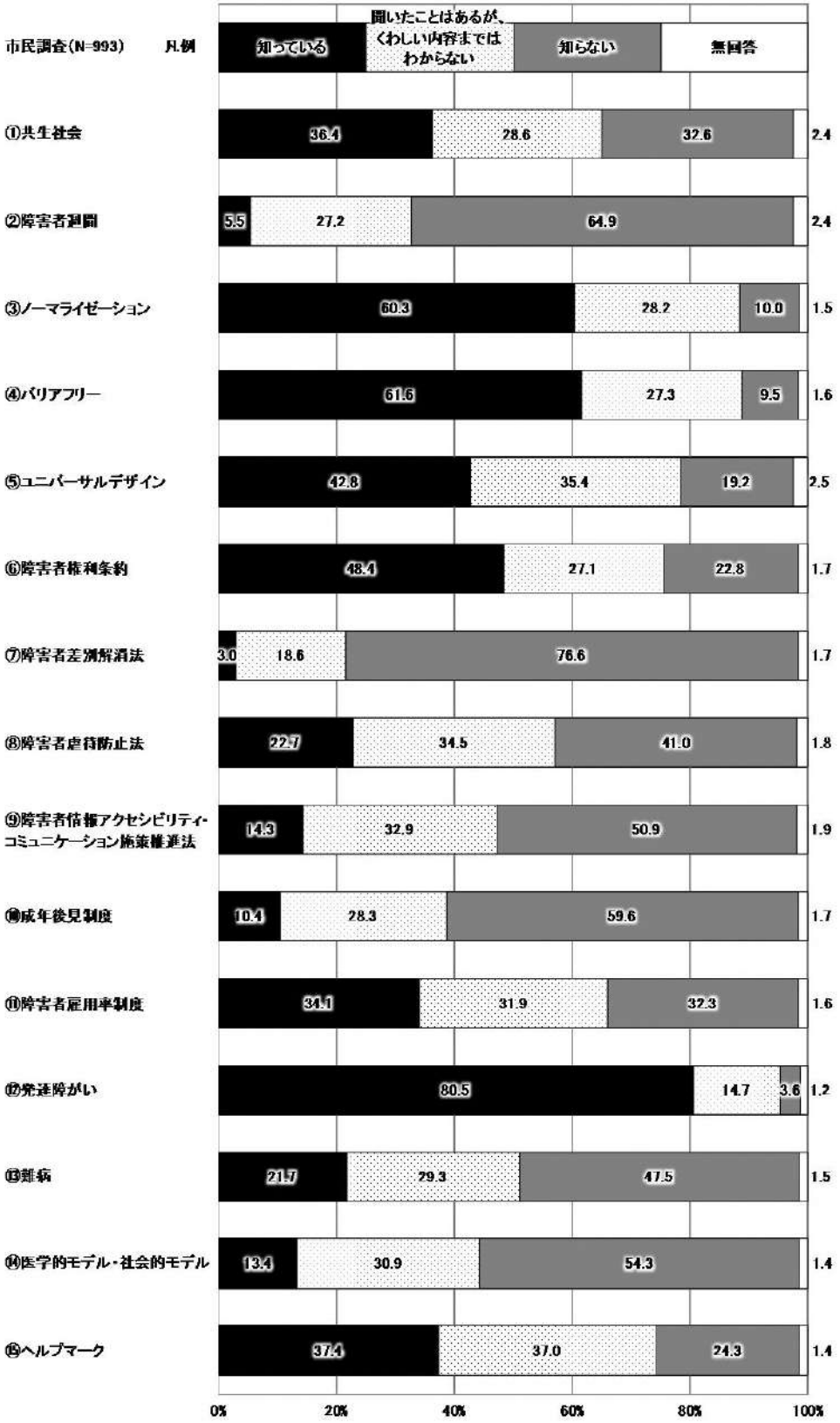
【図 13-1-2 「共生社会」に基づいた考え方について(全体)】



「障がいのある人が身近で生活しているのはあたり前だ」と思うかについて、「そう思う」56.8%が最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」23.3%、「一概にいえない」8.9%、「わからない」6.1%、「どちらかといえばそう思わない」1.6%となっている。

（3）福祉に関する用語の認知状況

【図 13-1-3　福祉に関する用語の認知状況（全体）】

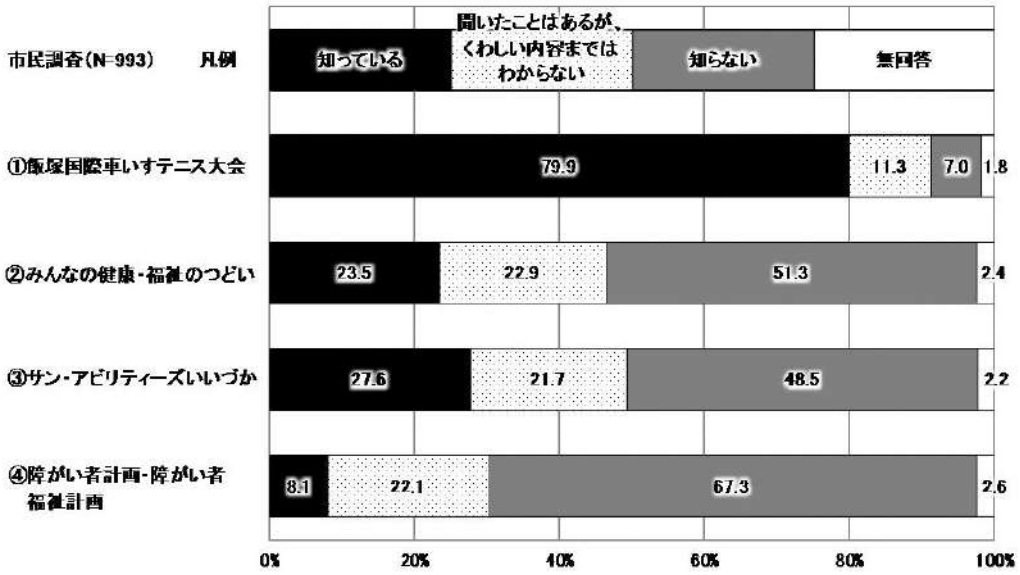


福祉に関する用語の認知状況については、「⑫発達障がい」80.5%の割合が最も高く、次いで、「④バリアフリー」61.6%、「③ノーマライゼーション」60.3%、「⑥障害者権利条約」48.4%、「⑤ユニバーサルデザイン」42.8%、「⑮ヘルプマーク」37.4%、「①共生社会」36.4%となっている。

2. 障がい者施策やイベント等について

（1）障がい者施策やイベント等の認知状況

【図 13-2-1 障がい者施策やイベント等の認知状況（全体）】

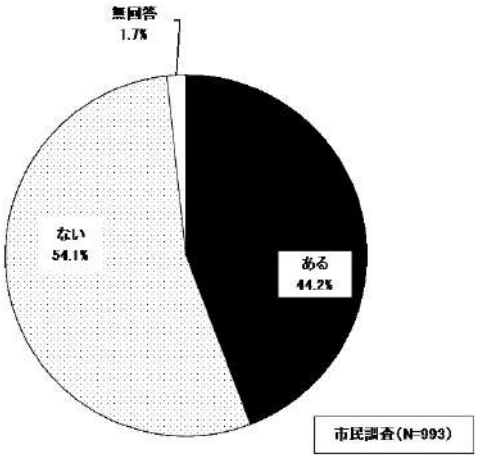


障がい者施策やイベント等の認知状況について、「知っている」ものでは「①飯塚国際車いすテニス大会」79.9%の割合が最も高く、次いで「③サン・アビリティーズいいづか」27.6%、「②みんなの健康・福祉のつどい」23.5%、「④障がい者計画・障がい者福祉計画」8.1%となっている。

3. ボランティア・福祉について

（1）障がい者への介助経験

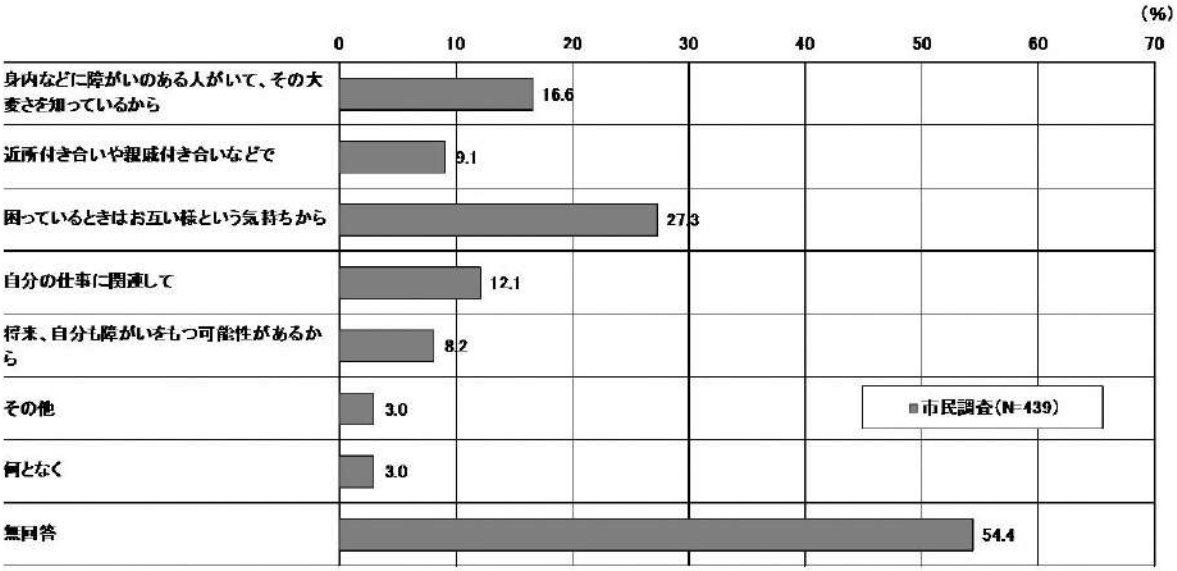
【図 13-3-1　障がい者への介助経験（全体）】



地域の中や近所で障がいのある人に手助けをしたことがあるかについて、「ない」が 54.1%、「ある」が 44.2%となっている。

（2）介助を行った際の気持ち

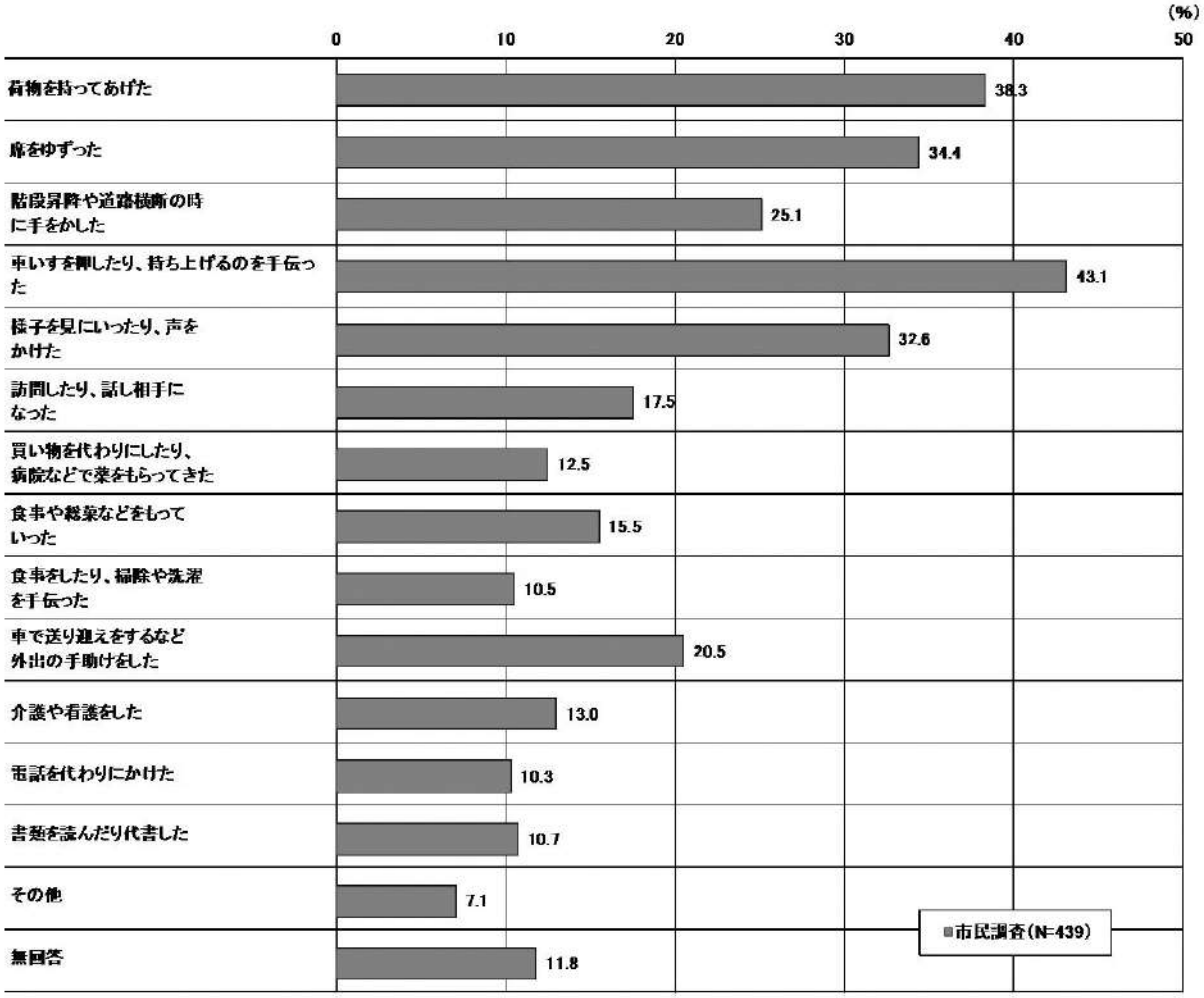
【図 13-3-2　介助を行った際の気持ち（全体）】



「困っているときはお互い様という気持ちから」27.3%が最も多く、次いで、「身内などに障がいのある人がいて、その大変さを知っているから」16.6%、「自分の仕事に関連して」12.1%、「近所付き合いや親戚付き合いなどで」9.1%、「将来、自分も障がいをもつ可能性があるから」8.2%となっている。

（3）介助内容

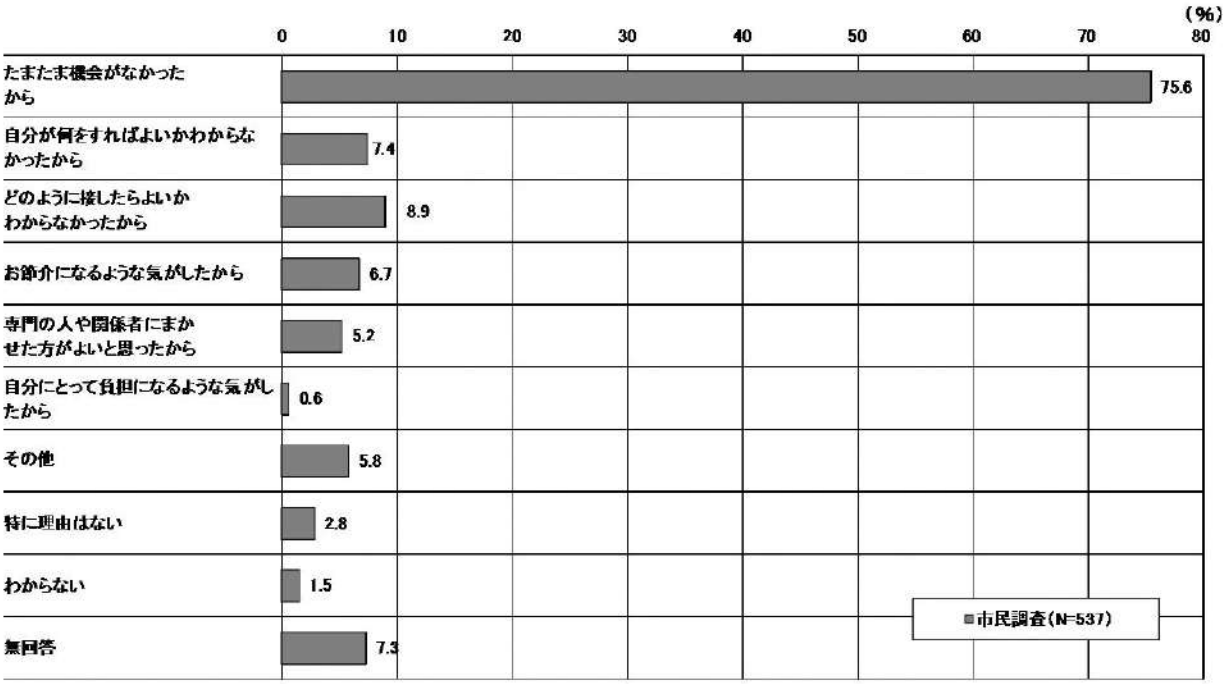
【図 13-3-3　介助内容（全体）】



手助けした内容では、「車いすを押したり、持ち上げるのを手伝った」43.1%が最も多く、次いで、「荷物を持ってあげた」38.3%、「席をゆずった」34.4%、「様子を見にいったり、声をかけた」32.6%、「階段昇降や道路横断の時に手をかした」25.1%となっている。

（4）介助しなかった理由

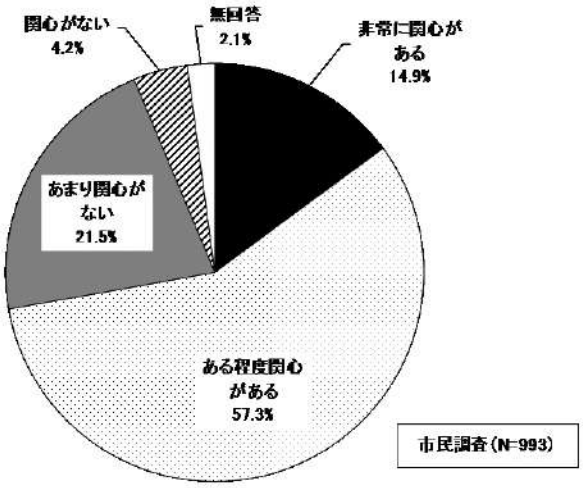
【図 13-3-4　介助しなかった理由（全体）】



手助けしなかった理由では、「たまたま機会がなかったから」75.6%が最も多く、次いで、「どのように接したらよいかわからなかったから」8.9%、「自分が何をすればよいかわからなかったから」7.4%、「お節介になるような気がしたから」6.7%、「その他」5.8%となっている。

（5）障がい者福祉への関心度

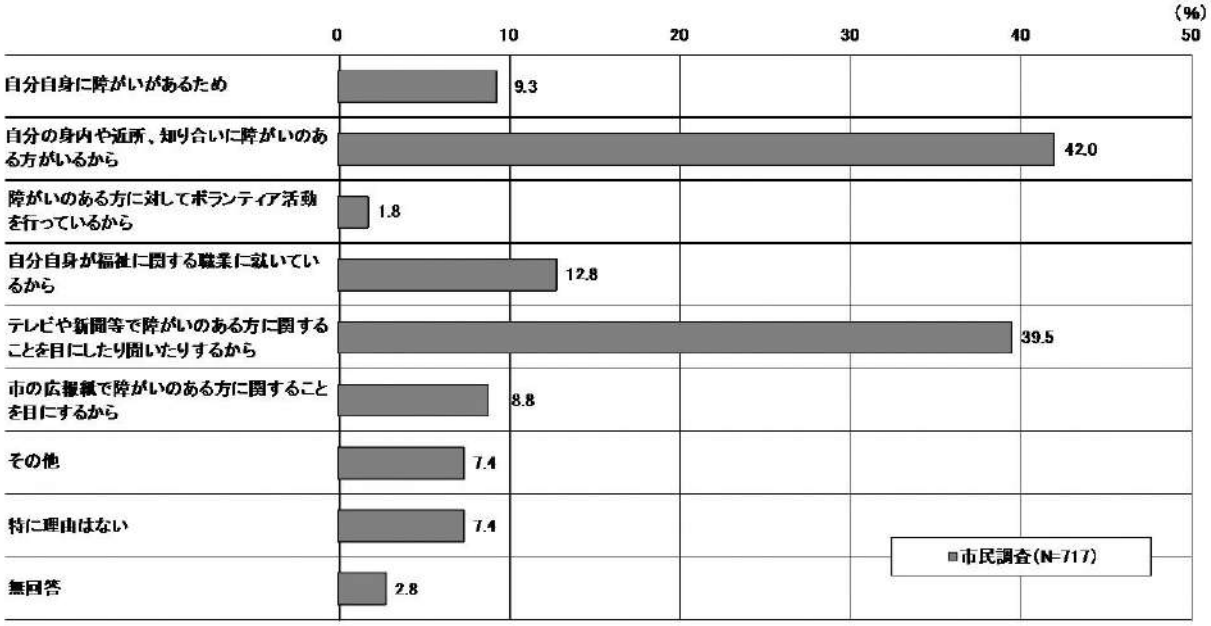
【図 13-3-5　障がい者福祉への関心度（全体）】



障がい者福祉への関心では、「ある程度関心がある」57.3%が最も多く、次いで、「あまり関心がない」21.5%、「非常に関心がある」14.9%、「関心がない」4.2%となっている。

（6）障がい者福祉に関心を持つ理由

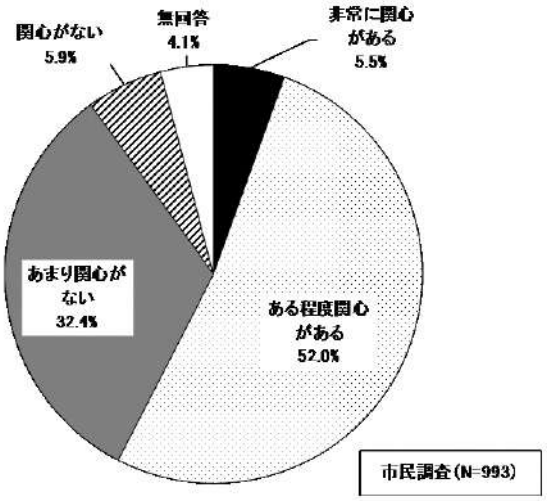
【図 13-3-6　障がい者福祉に関心を持つ理由（全体）】



障がい者福祉に関心がある理由では、「自分の身内や近所、知り合いに障がいのある方がいるから」42.0%が最も多く、次いで、「テレビや新聞等で障がいのある方に関することを目にしたり聞いたりするから」39.5%、「自分自身が福祉に関する職業に就いているから」12.8%、「自分自身に障がいがあるため」9.3%、「市の広報紙で障がいのある方に関することを目にするから」8.8%となっている。

（7）ボランティア活動への関心度

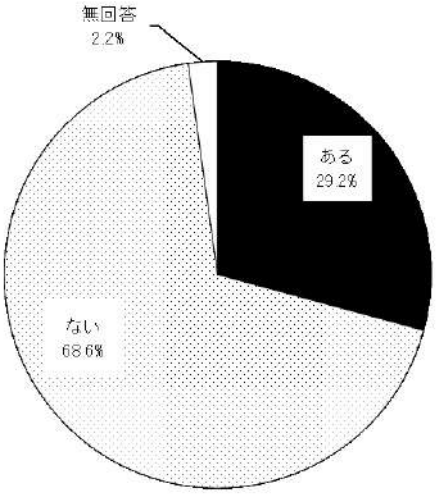
【図 13-3-7　ボランティア活動への関心度（全体）】



ボランティア活動への関心では、「ある程度関心がある」52.0%が最も多く、次いで、「あまり関心がない」32.4%、「全く関心がない」5.9%、「非常に関心がある」5.5%となっている。

（8）ボランティアの活動経験

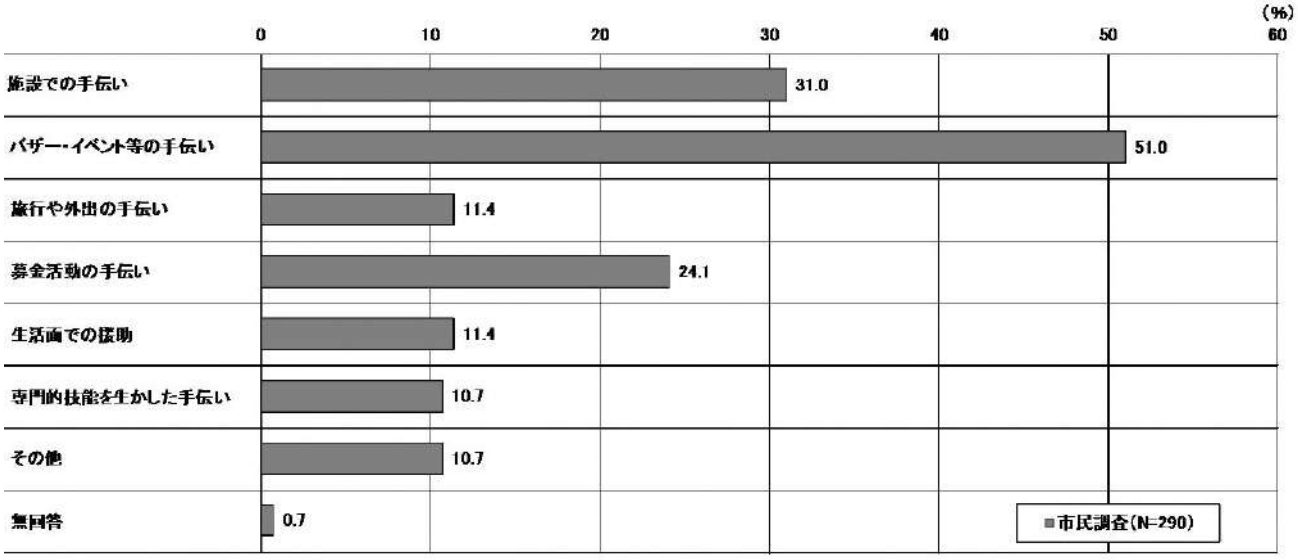
【図 13-3-8 ボランティアの活動経験（全体）】



ボランティアの活動経験では、「ない」が 68.6%、「ある」が 29.2%となっている。

（9）ボランティア活動内容

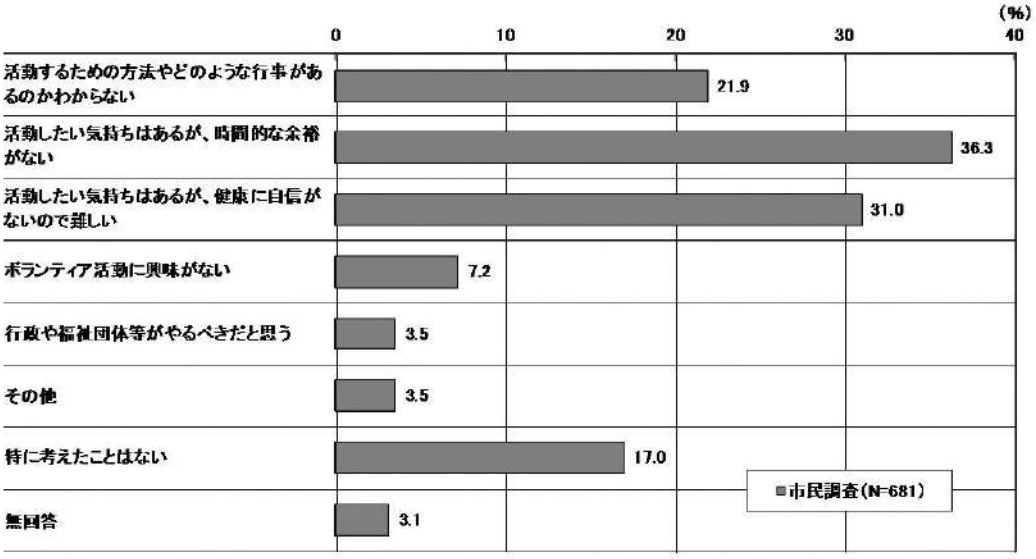
【図 13-3-9 ボランティア活動内容（全体）】



ボランティア活動の内容では、「バザー・イベント等の手伝い」51.0%が最も多く、次いで、「施設での手伝い」31.0%、「募金活動の手伝い」24.1%、「旅行や外出の手伝い」「生活面での援助」11.4%となっている。

(10)ボランティア活動をしたことがない理由

【図 13-3-10 ボランティア活動をしたことがない理由(全体)】

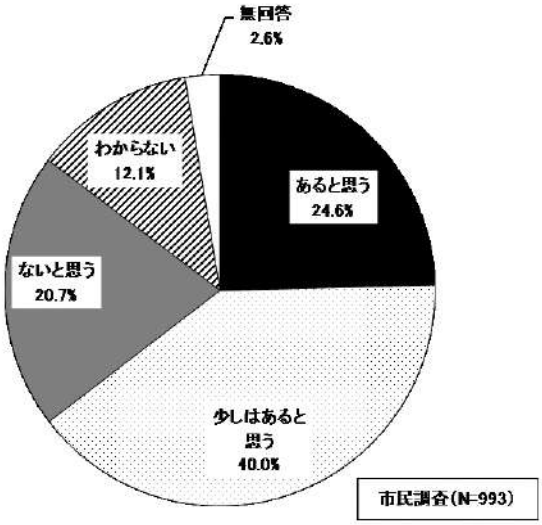


ボランティア活動をしたことがない理由では、「活動したい気持ちはあるが、時間的な余裕がない」36.3%が最も多く、次いで、「活動したい気持ちはあるが、健康に自信がないので難しい」31.0%、「活動するための方法やどのような行事があるのかわからない」21.9%、「特に考えたことはない」17.0%、「ボランティア活動に興味がない」7.2%となっている。

4. 障がい者への差別や偏見について

（1）障がい者への差別や偏見

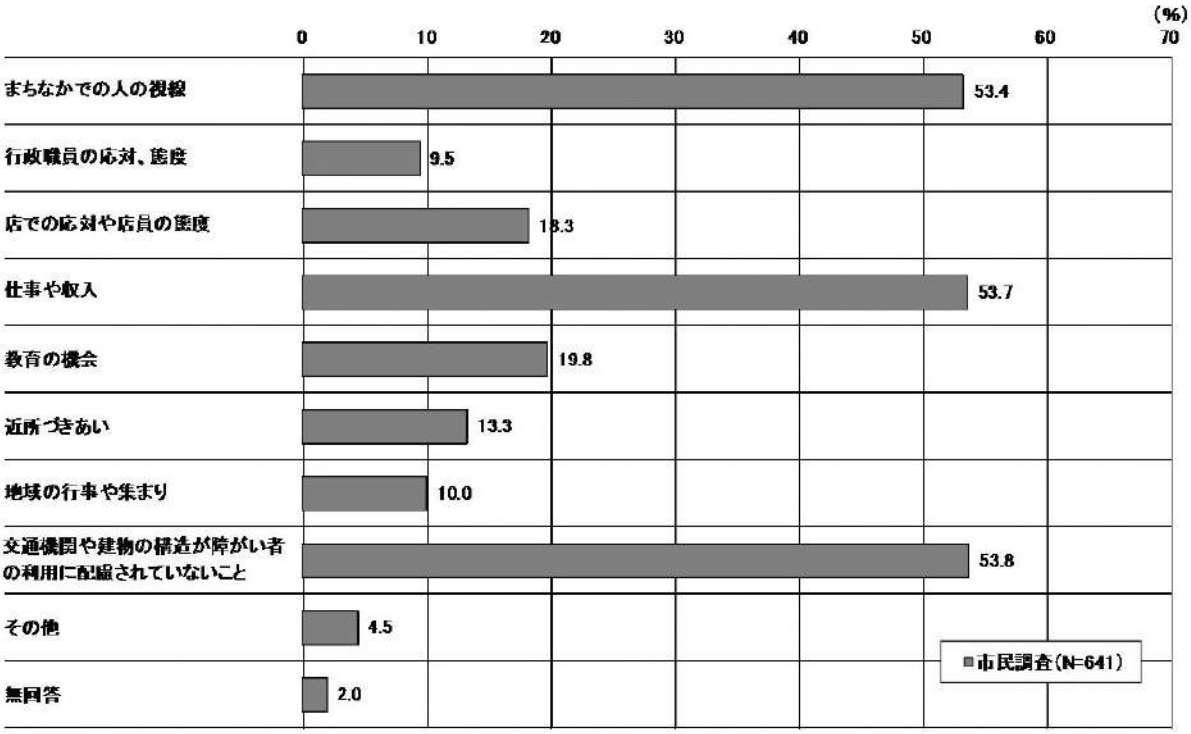
【図 13-4-1 障がい者への差別や偏見（全体）】



普段の暮らしの中で、障がいのある人への差別や偏見があると感じるかについて、「少しはあると思う」40.0%が最も多く、次いで「あると思う」24.6%、「ないと思う」20.7%、「わからない」12.1%となっている。

（2）差別や偏見を感じる場所

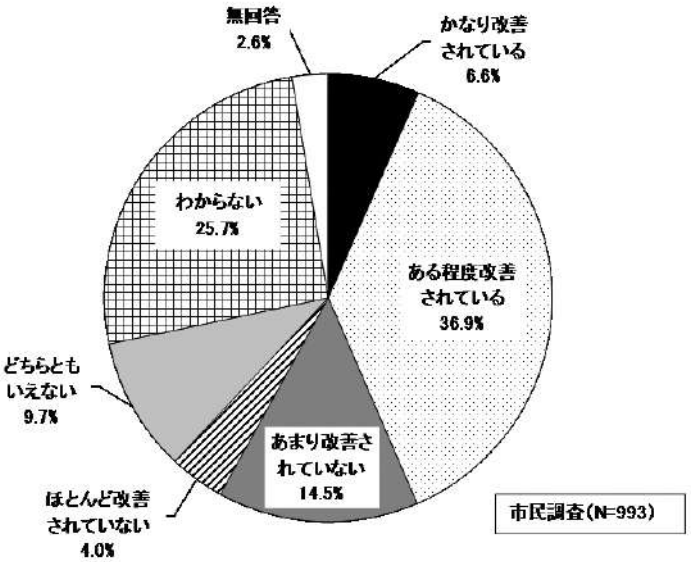
【図 13-4-2 差別や偏見を感じる場所（全体）】



差別や偏見を感じる場所では、「交通機関や建物の構造が障がい者の利用に配慮されていないこと」53.8%が最も多く、次いで、「仕事や収入」53.7%、「まちなかでの人の視線」53.4%、「教育の機会」19.8%、「店での応対や店員の態度」18.3%となっている。

(3)5年前と比べた障がい者への差別や偏見の改善状況

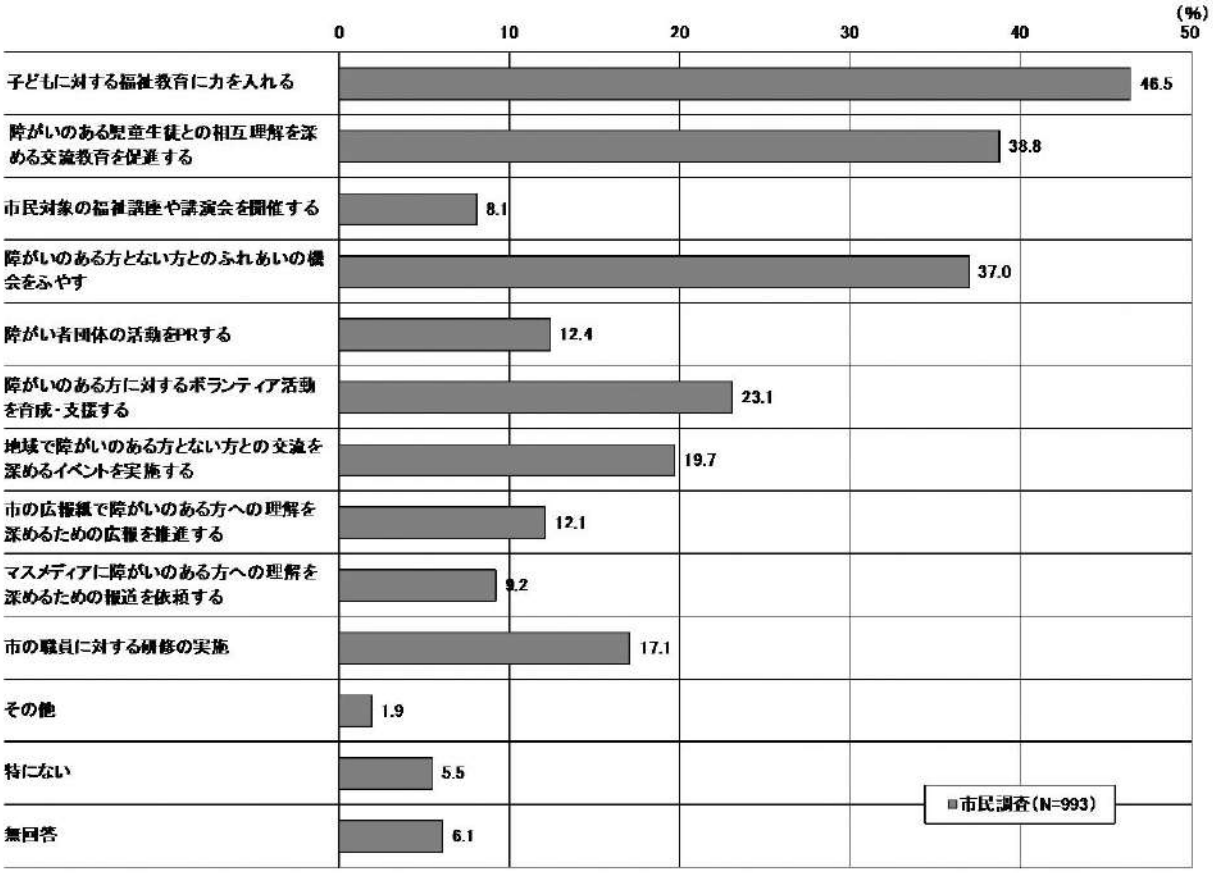
【図 13-4-3 5年前と比べた障がい者への差別や偏見の改善状況(全体)】



5年前と比べた障がい者への差別や偏見の改善状況では、「ある程度改善されている」36.9%が最も多く、次いで、「わからない」25.7%、「あまり改善されていない」14.5%、「どちらともいえない」9.7%、「かなり改善されている」6.6%となっている。

（4）障がい者への理解を促進するために必要な取り組み

【図 13-4-4　障がい者への理解を促進するために必要な取り組み（全体）】

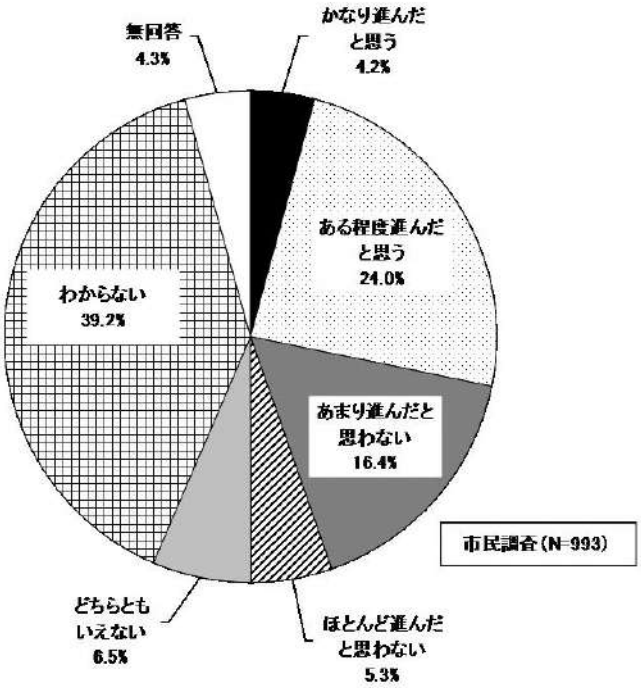


障がい者への理解を促進するために必要だと思う取り組みでは、「子どもに対する福祉教育に力を入れる」46.5%が最も多く、次いで、「障がいのある児童生徒とない児童生徒とが相互理解を深める交流教育を促進する」38.8%、「スポーツ、レクリエーション、文化活動などを通じて障がいのある方とない方とのふれあいの機会をふやす」37.0%、「障がいのある方に対するボランティア活動を育成・支援する」23.1%、「地域において障がいのある方とない方との交流を深めるイベントを実施する」19.7%となっている。

5. 障がい者福祉施策について

（1）5年前と比べた福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策の進捗状況

【図 13-5-1　5年前と比べた福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策の進捗状況



５年前と比べた福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策の進捗状況は、「わからない」39.2%が最も多く、次いで、「ある程度進んだと思う」24.0%、「あまり進んだと思わない」16.4%、「どちらともいえない」6.5%、「ほとんど進んだと思わない」5.3%となっている。